

短期大学学生に関する調査研究  
-2013年 JCSS 調査 全体集計結果報告-

2014年7月

一般財団法人 短期大学基準協会

JCIRP 短期大学調査チーム

(研究代表:山田 礼子)



## 目次

### 巻頭言

まえがき .....	1
第1部 図と文章で示す集計結果 .....	3
1 性別 .....	3
2 年齢 .....	3
3 修業年限 .....	4
4 入学年度 .....	4
5 在学状況(学年等) .....	5
6 居住形態 .....	5
7 通学時間 .....	6
8 高校での成績 .....	6
9(1) 出身校の種別(国立・公立・私立) .....	7
9(2) 共学・別学の別 .....	7
10 経済的援助の有無(日本学生支援機構の奨学金) .....	8
11 入学後に経験したことがあることから .....	8
12 進学理由と重要度 .....	9
13 留学生か否かの別 .....	10
14 特別な学習支援(学習補助、補習授業等)の経験と希望 .....	11
15 入学後における諸活動の経験の程度 .....	13
16 専門分野の別 .....	14
17 進学志向 .....	15
18 今年度諸活動に費やした時間 .....	16
19 今年度経験したことがあるの程度 .....	17
20 同年齢者と比較しての自己評価 .....	18
21 設備やサービスに対する満足度 .....	20
22 教員の提供する支援活動の程度 .....	21
23 入学時からの能力、知識の変化 .....	22
24 入学後の適応度 .....	23
25 成績 .....	24
26 人生の価値観 .....	25
27-1 女性の生き方についての考え(全体) .....	27
27-2 女性の生き方についての考え(女子学生のみ) .....	27
28-1 就職予定者における現況(全体) .....	28
28-2 就職予定者における現況(1年生のみ) .....	28
28-3 就職予定者における現況(2年生) .....	28
29 将来希望する職業及びキャリア .....	30
30 キャリア選択において重視する要素 .....	31
31 教育全般に対する満足度 .....	32

32	志望順位	33
33	進学時の入試方式	34
34	受験決定時期	35
35-1	家族内における高等教育機関卒業者の有無	36
35-2	家族内における高等教育機関卒業者の続柄	37
36	学生生活の充実度	38
37	選び直せるとしたときの進学志望	38

第2部	集計一覧	39
1	性別	39
2	年齢	39
3	修業年限	39
4	入学年度	39
5	在学状況(学年等)	40
6	居住形態	40
7	通学時間	40
8	高校での成績	40
9(1)	出身校の種別(国立・公立・私立)	41
9(2)	共学・別学の別	41
10-1	経済的援助の有無(日本学生支援機構の奨学金)	41
10-2	経済的援助の有無(地方自治体の奨学金)	41
10-3	経済的援助の有無(民間団体の奨学金)	41
10-4	経済的援助の有無(短大の奨学金や授業料免除)	42
10-5	経済的援助の有無(その他)	42
11-1	単位を取得できなかった授業の有無	42
11-2	補習授業の履修経験の有無	42
11-3	人権や民族に関する授業の履修経験の有無	42
11-4	女性学の授業の履修経験の有無	43
11-5	リーダー養成やキャリア開発訓練への参加経験の有無	43
11-6	海外研修プログラムへの参加経験の有無	43
11-7	他高等教育機関での履修科目の卒業単位算入の有無	43
11-8	他高等教育機関からの転学の有無	43
12	進学理由と重要度	44
13	留学生か否かの別	44
14	特別な学習支援(学習補助、補習授業等)の経験と希望	45
15	入学後における諸活動の経験の程度	46
16	専門分野の別	47
17	進学志向	47
18	今年度諸活動に費やした時間	47

19	今年度経験したことがらの程度.....	48
20	同年齢者と比較しての自己評価.....	49
21	設備やサービスに対する満足度(「わからない」を欠損値扱い).....	50
	設備やサービスに対する満足度(「わからない」を有効回答扱い).....	51
22	教員の提供する支援活動の程度.....	52
23	入学時からの能力、知識の変化.....	53
24	入学後の適応度.....	54
25	成績.....	54
26	人生の価値観.....	55
27	女性の生き方についての考え.....	56
28	就職予定者における現況.....	57
29	将来希望する職業及びキャリア.....	58
	将来希望する職業及びキャリア(上位10位まで).....	59
30	キャリア選択において重視する要素.....	59
31	教育全般に対する満足度(「わからない」を欠損値扱い).....	60
	教育全般に対する満足度(「わからない」を有効回答扱い).....	61
32	志望順位.....	62
33	進学時の入試方式.....	62
34	受験決定時期.....	63
35-1	家族内における高等教育機関卒業者の有無.....	63
35-2	家族内における高等教育機関卒業者の続柄.....	64
36	学生生活の充実度.....	65
37	選び直せるとしたときの進学志望.....	65
第3部 参加校の意見.....		66



## 巻頭言

本冊子は、2013年度に短期大学基準協会調査研究委員会が、「短期大学における主体的改革・改善に資する自己評価方法に関する調査研究」の課題のもと、「短期大学における学習効果測定法の開発」として、山田礼子同志社大学教授をリーダーとする「大学生調査研究プログラム」(JCIRP)の研究開発と協力して実施した、第6回「短期大学学生調査2013年(JJCSS2013)」の、全体集計結果であり、本調査の最終報告に当たるものです。

本調査では、2008年度の初回以来の過去3回の調査では予算枠の関係から調査件数に上限を設けて実施してきましたが、2011年度調査より参加校に個別経費部分の実費負担をいただくことによって、調査件数に上限を設けず実施し、希望されるすべての短期大学に参加していただくことができるようになりました。また、これによって、各短大にとっては、本調査の毎年の継続的な利用が可能になっています。

2013年9月3日に本調査の概要を説明した文書及び調査票の見本を全会員校に送付、参加を募った結果、37校の参加を得ることができました。参加短大に対しては、10月25日に調査票を発送し、12月中旬に同票の回収、その後、データ入力作業等の整理を行い、2014年2月に短期大学ごとの集計結果を参加短期大学にご提供いたしました。さらに、得られたデータ全体を用いての分析が、JCIRP内に組織された「短期大学学生調査チーム」により進められ、4月には全体集計結果を中間報告として参加短期大学にご提供いたしました。そして、その後、参加各校からアンケートにより本調査に関するご意見を伺い、その結果を加えて最終報告書としたのが本冊子です。

この調査では、参加した個々の短期大学は、自校のデータを得るほか、それと全体集計結果や山田教授の研究チームメンバーによる全体データを用いた学術研究とを付き合わせることで、吟味された項目によって、精度の高い自己評価資料が得られることから認証評価への対応に役立つでしょう。また、標準化された調査に参加することによって国際的な比較を含む他機関とのベンチマークが可能となり、さらにはマーケティングへの利用などのメリットがあると考えられます。そして、全体結果自体は、短期大学の実績を社会に示すことになると考えられます。

調査研究委員会では、2014年度には、今回の結果と、並行して実施してきました研究の成果等を踏まえ、大幅に改良しての短期大学学生調査を実施することとしています。本調査にご協力いただきました関係各位に感謝するとともに、本報告書が様々な形で活用され、本調査が発展して日本の高等教育の展開に資するようになることを願ってやみません。

2014年7月

調査研究委員会委員長  
館 昭





## まえがき

山田礼子（調査研究委員会委員／同志社大学）

私ども JCIRP(Japanese Cooperative Institutional Research Program)研究グループは一般財団法人短期大学基準協会のご協力と支援を得て、日本版短期大学学生調査(JJCSS=Japanese Junior College Student Survey)を開発し、2008年に初めての調査を実施して以来、毎年調査を実施してきた。今回の調査で6回目になり、本調査も定着してきたのではないかと考えている。

本最終報告書は、2013年の調査結果に関する中間報告書の公表後に、参加各校からアンケートにより本調査に関するご意見を伺い、その結果を加えたものである。2010年からは、中間報告時点で参加短期大学からの調査や調査結果に対するアンケートによるフィードバックをいただき、その結果を最終報告書に反映するような工夫を行った。今年度も同様に、中間報告書では、グラフや表による単純集計の表示と解説を中心に構成し、最終報告書には、参加校からのアンケートによるフィードバックも掲載している。

調査は2013年の9月上旬から10月上旬の約1ヶ月間に会員校全てを対象に参加を募り、11月上旬から12月上旬の約1ヶ月間の期間で調査が実施された。2013年調査の参加短期大学数は37校、参加人数は10,695名であった。今年度は例年以上に多くの短期大学と短期大学生が参加していただいたことから、本プロジェクトが間接評価として定着し、かつフィードバックへの期待が高まっていると考え、関係者一同その期待に応えていきたいと改めてその責任を認識した次第である。

調査の募集およびデータの整理、集計、分析は短期大学基準協会とそのなかに設けられた短期大学基準協会調査研究委員会が実施しているが、調査対象学年の選定については、全数調査ではなく、調査に参加する短期大学にお任せしている。

短期大学学生調査(JJCSS)は、これまでにJCIRP研究グループが実施してきた大学生調査(JCSS=Japanese College Student Survey)と新入生調査(JFS=Japanese Freshman Survey)の知見をベースに開発した調査である。短期大学は四年制大学と比較すると2~3年間という短い課程のなかでの学生の成長を検証していくことが必要となる。しかし、逆に2~3年間という教育課程であるがゆえに、教育目標を設定することにより、カリキュラムの改革に着手しやすい。それゆえ、四年制大学以上に間接調査としての学生調査結果を教員が共有し、教育方法やカリキュラム改革に結果を利用することが可能であると期待できる。

それでは、私どもが開発した間接評価としての学生調査全体のプログラムを紹介し、短期大学学生調査の開発とその意義について述べておきたい。Japanese Cooperative Institutional Research Program(JCIRP)(大学生調査研究プログラム)は新入生調査(JFS)、大学生調査(JCSS)と短期大学学生調査(JJCSS)の3つの学生調査からなるプログラムである。JFSとJCSSは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所(UCLA-HERI)の許諾を得て、HERIが行ってきたCIRP Freshman SurveyとCollege Student Survey(CSS)をもとに日本用の独自項目を加えて開発されている。JJCSSはJCSSなどを

参照しながら、日本で短期大学用に独自に開発した調査である。それぞれの調査票は、学生の入学以前の背景、大学や短期大学での経験、満足度、獲得したスキルや能力、生活習慣、自己評価、価値観等の項目から構成されており、自大学・短期大学の学生の全体像が把握できるようになっている。JCIRP プログラムに参加した場合、参加大学・短期大学の個別調査データを返却することにより、参加機関にとっては、当該大学・短期大学の学生に関する詳細なデータが得られるとともに、同じ調査に参加した他大学を含む全体の学生の統計データとの比較が可能になる。このことにより、①大学教育改革のために役立つ、②入学志願のマーケティングに役立つ、③ア kredィテーション（認証評価）対策として役立つ、④ベンチマークとして役立つ、⑤国際比較ができる、⑥共同研究に参加できるというようなメリットがある。

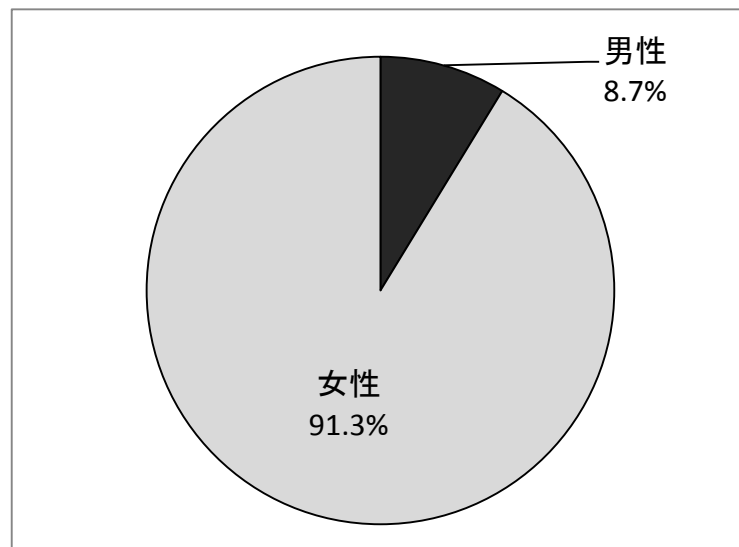
調査結果から得られた学生の傾向から、より学生が授業に活発に参加できるように授業の形態を考えていく資料にもなる。JJCSS 調査の開発に当たっては、四年制大学生調査との違いを把握しながら、質問項目を考察してきた。そうした短期大学の特徴に応じた質問項目が短期大学生の特徴にも反映されているとみることができよう。

参加短期大学からの本調査に関するご意見からは、今後本調査を遂行していく上で、各参加校へのフィードバックの改善につながるような貴重な示唆をたくさんいただいている。

今回 JJCSS に参加された短期大学あるいは今後 JJCSS への参加を企図している短期大学は、是非 JJCSS の分析結果、あるいはデータを利用していただき、より良い短期大学の教育プログラム、学生支援プログラム、そして教員の教育方法の改善など FD にもつなげていただきたいと開発者一同願っている。開発して間もないことから、まだまだ不十分な点が少なくないが、より多くの短期大学の参加と継続して調査をすることを通じて、精緻な分析と短期大学の実態に基づいた調査を開発し、多くの短期大学が利用できるような標準化した調査にしていきたい。最後に、標準化した調査という点に関連して、これまで実施してきた 6 回のデータを検討し、次年度にはより短期大学生の特徴を反映した調査に改定することも視野にいれていることを付け加えたい。

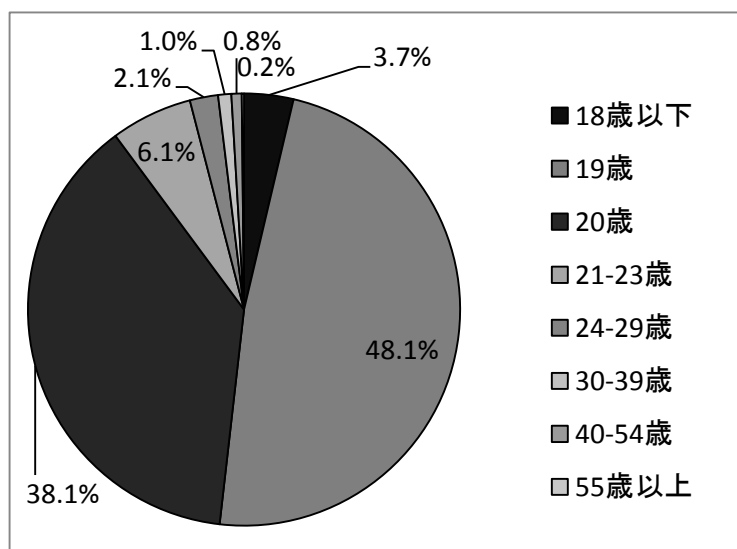
## 第1部 図と文章で示す集計結果

[1] あなたの性別をお答えください。



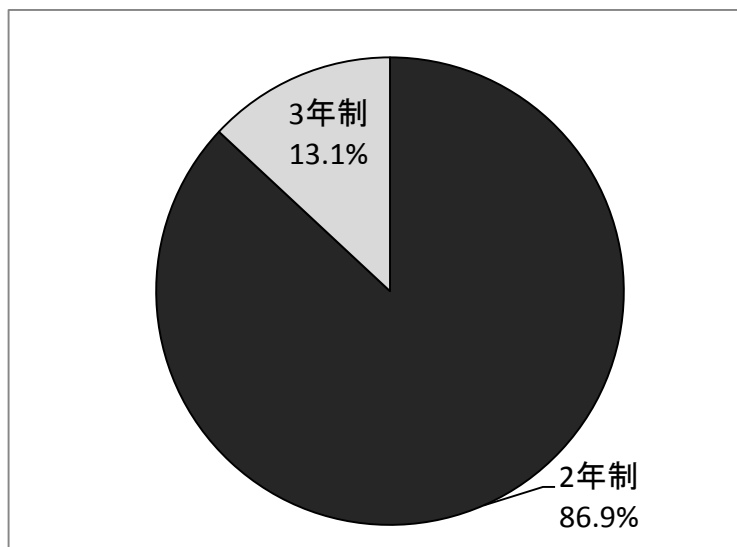
短大生のうち、91.3%が女性であり、男性は8.7%である。

[2] 今年度（2013年4月～2014年3月）、あなたは何歳になりますか。



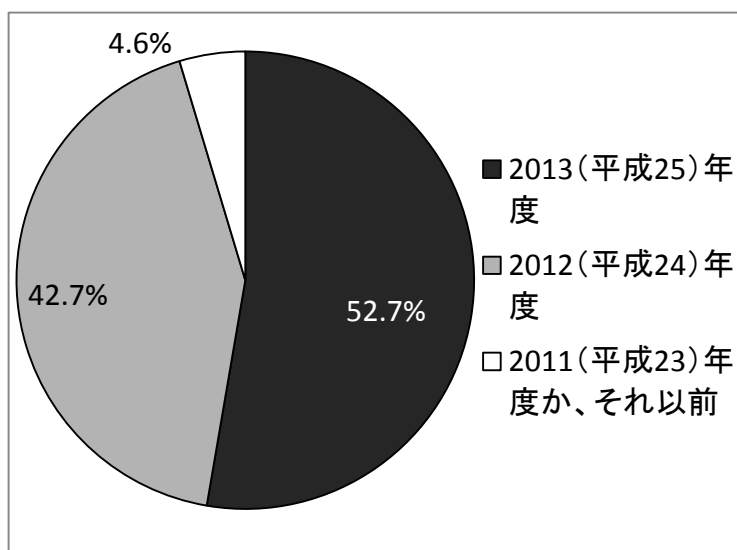
短大生の年齢は、19歳と20歳が多く、全体の86.2%を占めている。

[3] あなたの所属する学科の修業年限を教えてください。



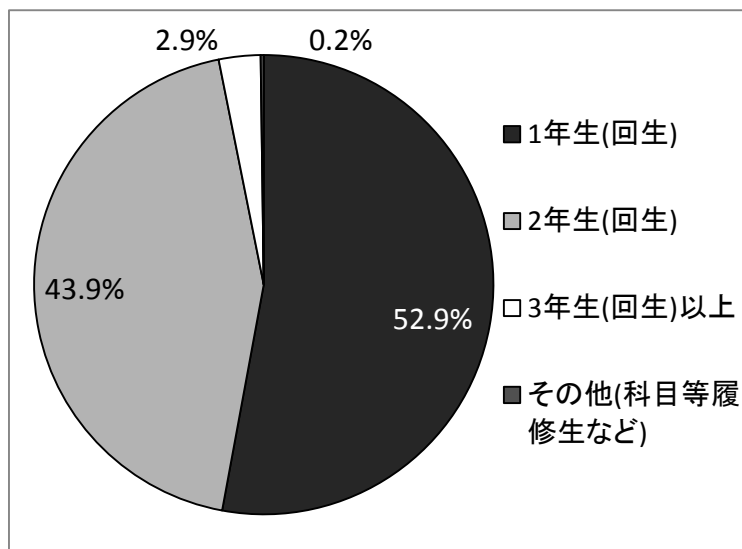
2年制の短大生が86.9%、3年制の短大生が13.1%である。

[4] あなたは本学に何年度に入学しましたか。



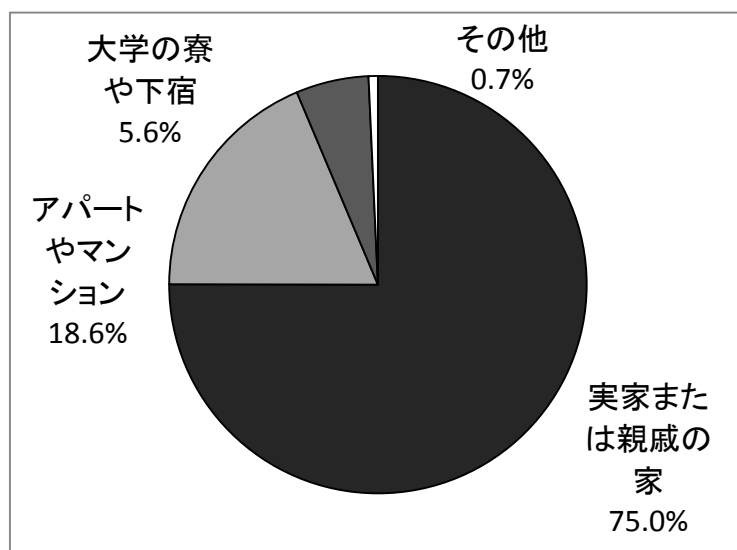
2013年度入学者が52.7%、2012年度入学者が42.7%である。

[5] あなたの現在の在学状況を教えてください。



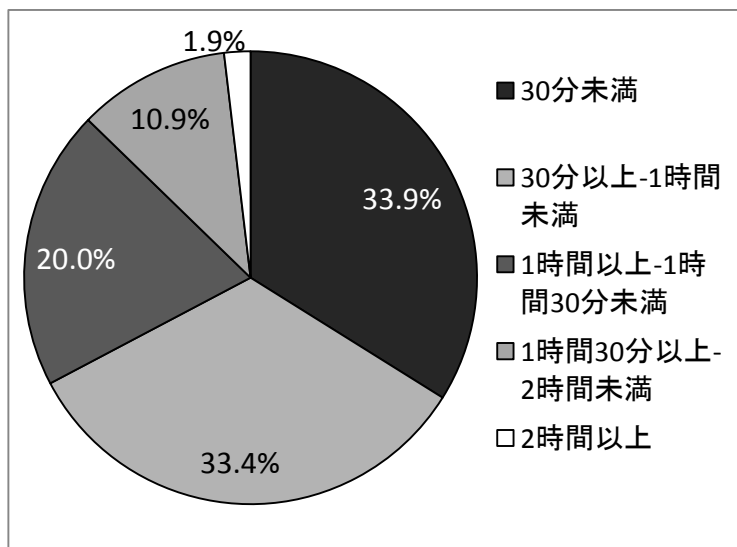
1年生（回生）が 52.9%、2年生（回生）が 43.9%である。

[6] あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。



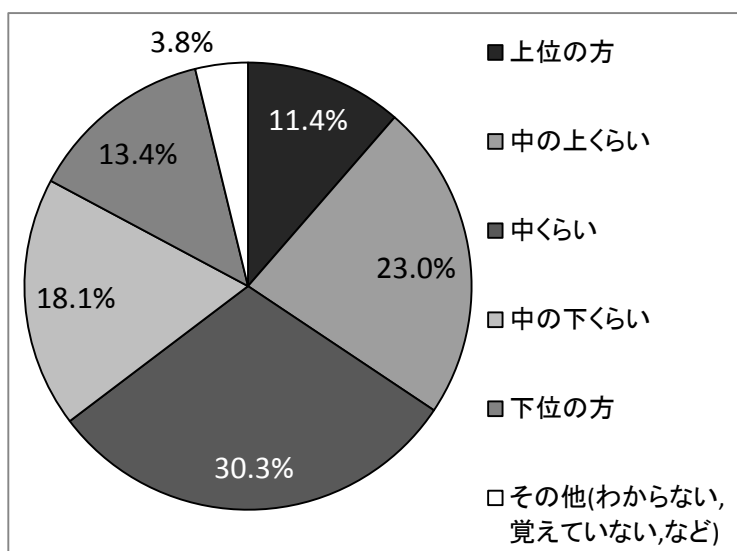
実家または親戚の家に住んでいる短大生は 75.0%おり、アパートやマンションは 18.6%、大学の寮や下宿は 5.6%である。

[7] あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



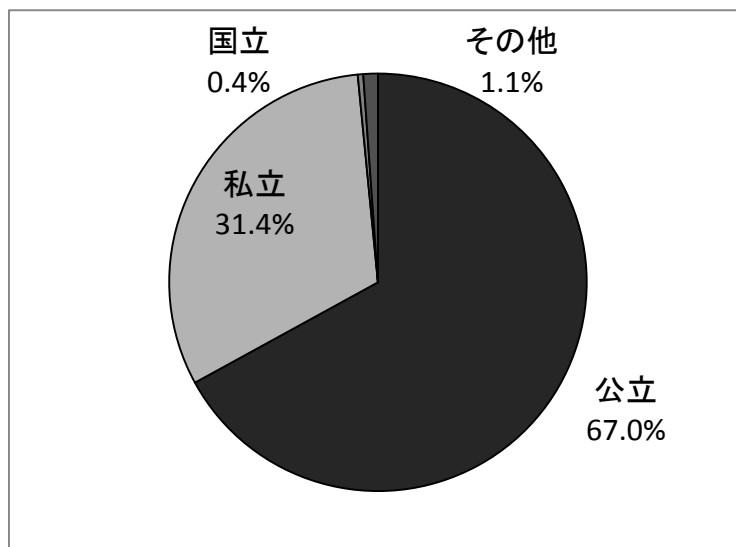
通学時間の分布を見ると、30分未満の短大生が33.9%、30分以上1時間未満の短大生が33.4%であり、通学時間が1時間未満の学生を合わせると67.3%となる。

[8] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



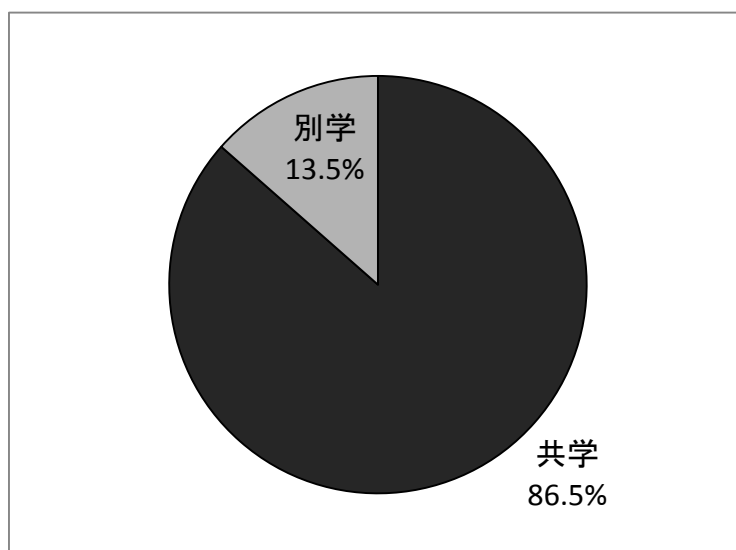
高校の成績を中くらいと回答した者は30.3%である。上位の方と中の上くらいを合わせると34.4%である。

[9(1)] あなたの高校は公立（県立・市立など）、私立、国立のどれでしたか。



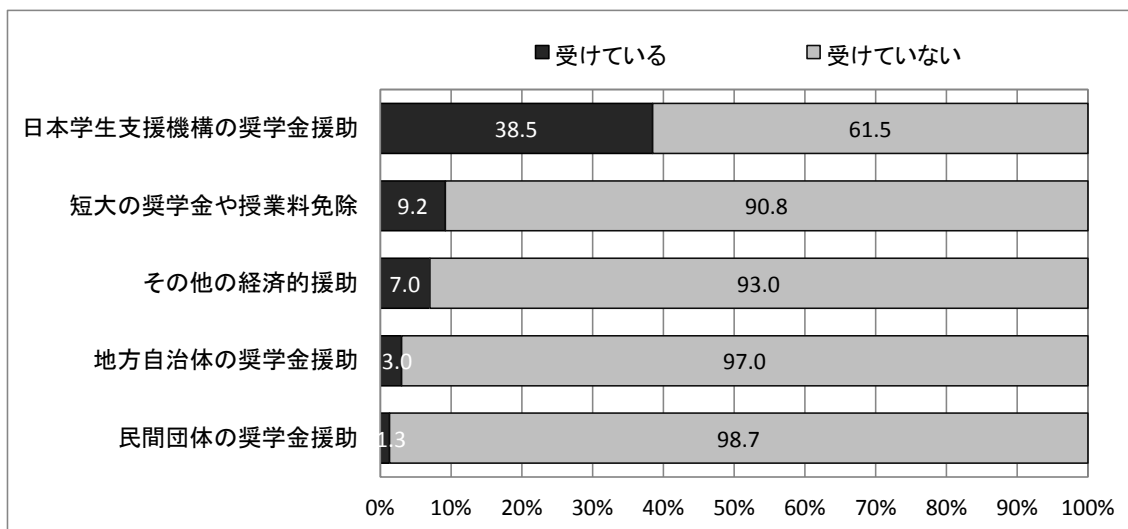
短大生の 67.0%は、公立高校の出身である。

[9(2)] あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。



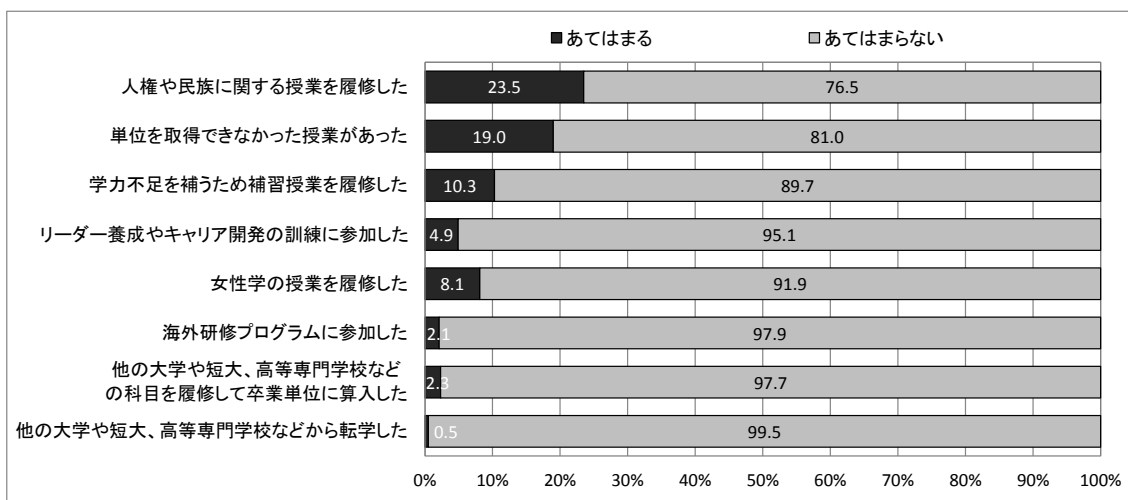
短大生の 86.5%は、男女共学の高校を卒業している。

〔10〕 あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか。



問 10 は、奨学金などの経済的援助に関する問いである。日本学生支援機構の奨学金の利用が最も多く、38.5%の短大生が援助を受けている。その他の奨学金受給者はいずれも数%程度にとどまっている。

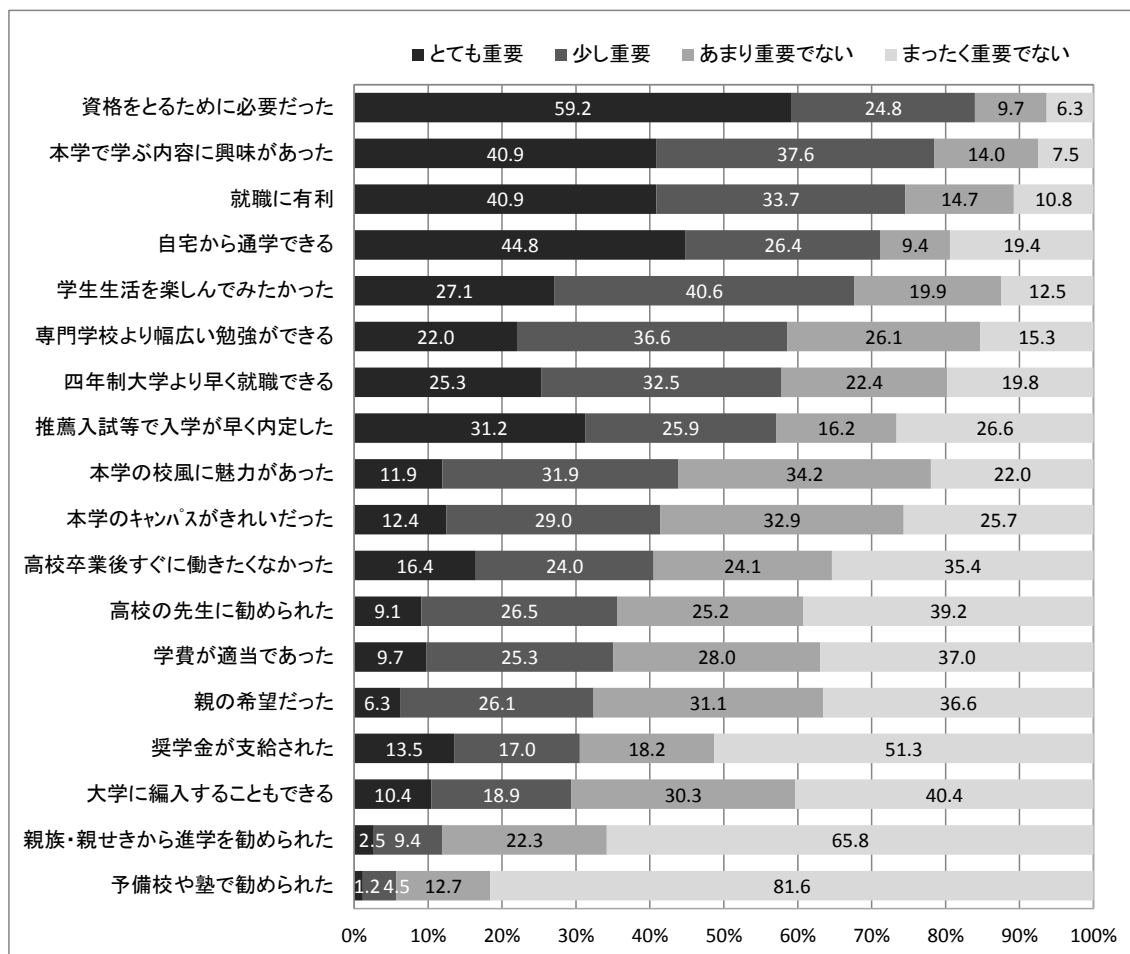
〔11〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか。



問 11 は、短大生が短大に入学して以降、経験したことがあることがらを質問している。「あてはまる」と回答した短大生が多い項目を見ると、「人権や民族に関する授業を履修した」(23.5%)、「単位を取得できなかった授業があった」(19.0%)となっている。



[12] あなたが本学に進学した理由として、次のことがらほどの程度重要でしたか。

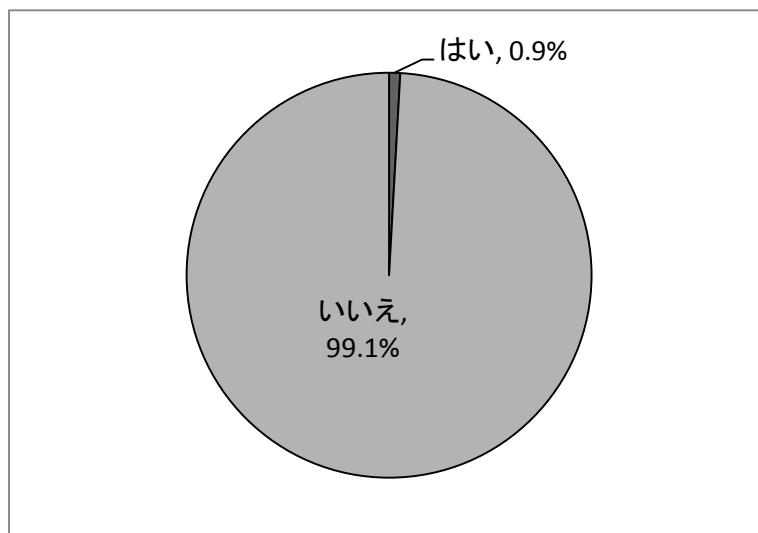


問 12 は、現在通っている短大への進学を決めた理由として、どのような要素が重視されているかを質問したものである。進学を決めた理由として、「とても重要」と「少し重要」のパーセンテージが最も多かった項目は、「資格を取るために必要だった」(84.0%)であった。続いて、「本学で学ぶ内容に興味があった」(78.5%)、「就職に有利」(74.6%)、「自宅から通学できる」(71.2%)である。

一方、「あまり重要でない」と「まったく重要でない」を合わせたパーセンテージが多く、進学を決める際に重視されていない項目を見ると、「予備校や塾で勧められた」(94.3%)、「親族・親せきから進学を勧められた」(88.1%)、「大学に編入することもできる」(70.7%)、「奨学金が支給された」(69.5%)である。

進学理由において、他者の勧めや奨学金はさほど重視されておらず、資格の取得や就職、短大で学ぶ学習内容など、本人の目的と将来への備えが重視されているといえる。

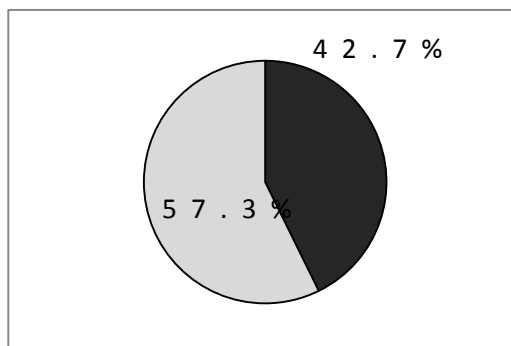
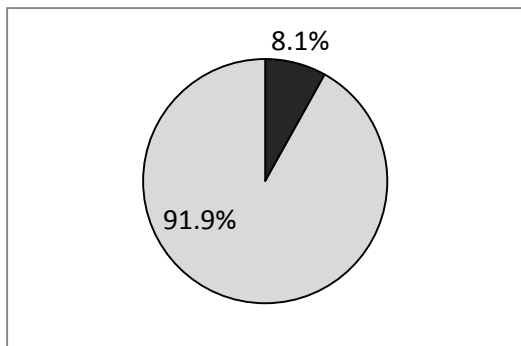
[13] あなたは留学生ですか。



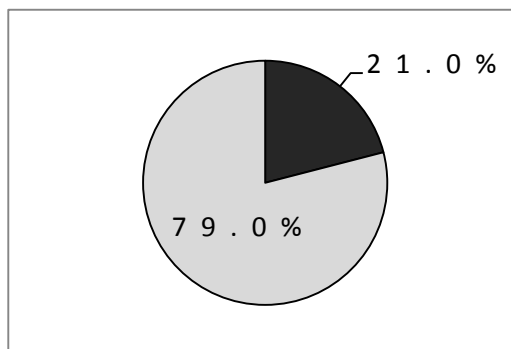
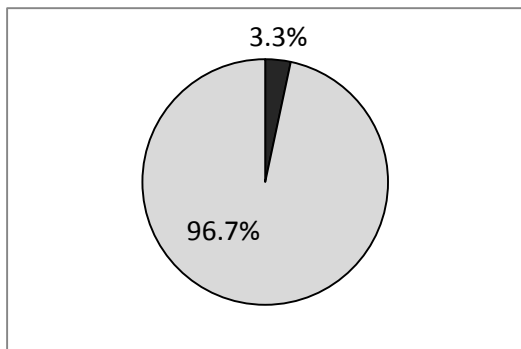
短大生のうち留学生は 0.9%であった。

〔14〕あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。

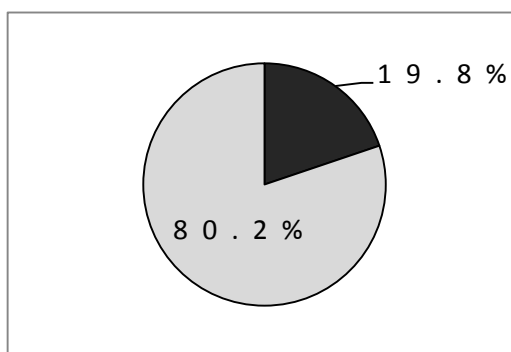
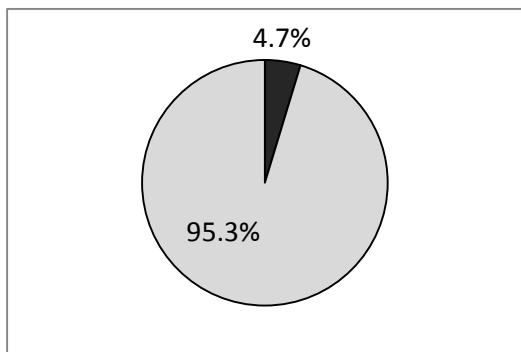
1. 文章表現



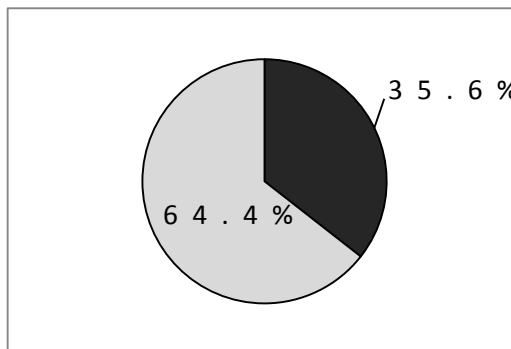
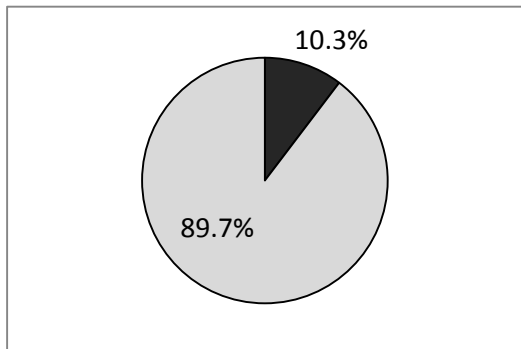
2. 数学



3. 理科



4. 英語

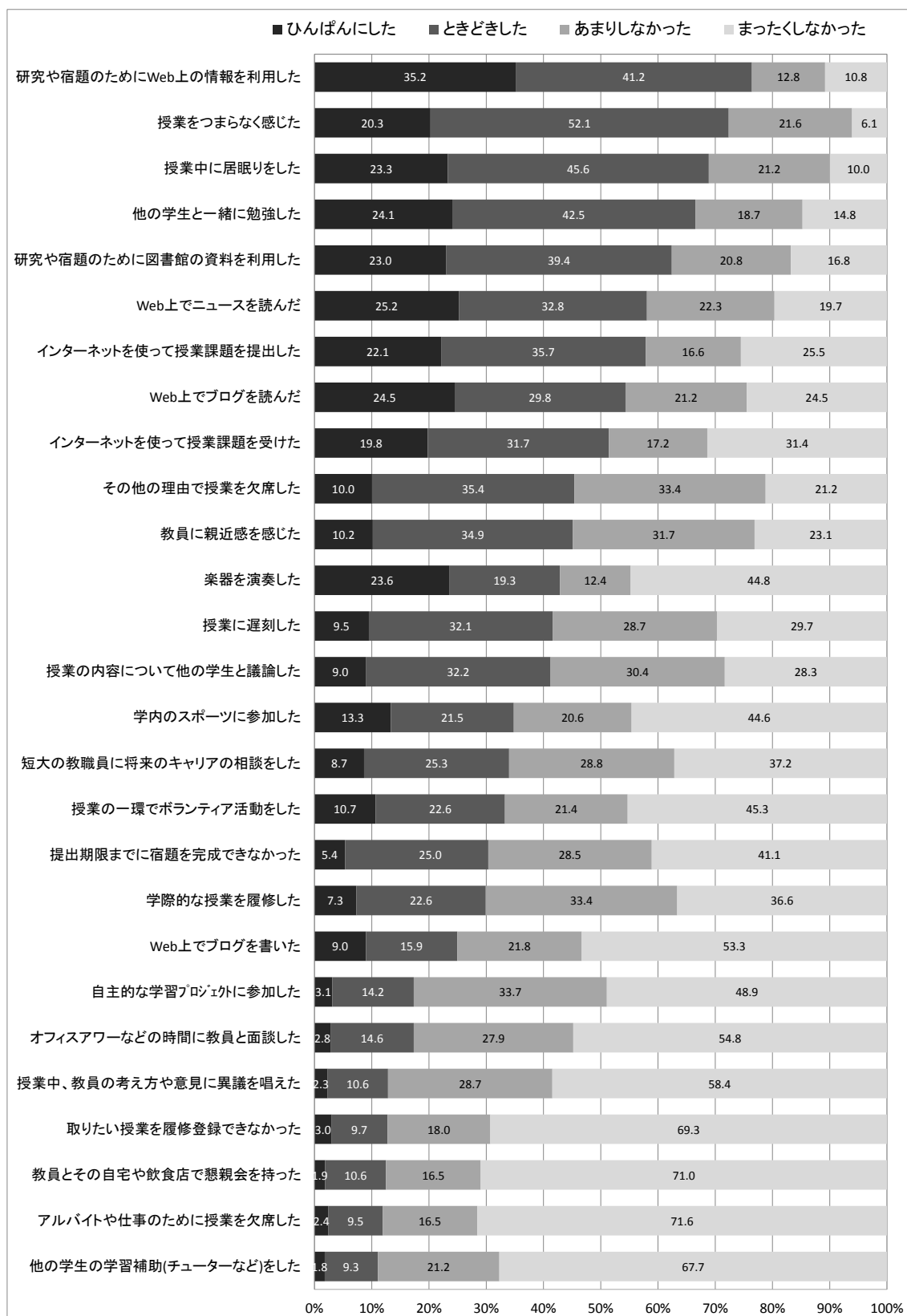


■特別な学習支援を受けている  
 ■特別な学習支援は受けていない

■特別な学習支援を受けたい  
 ■特別な学習支援は受けたくない

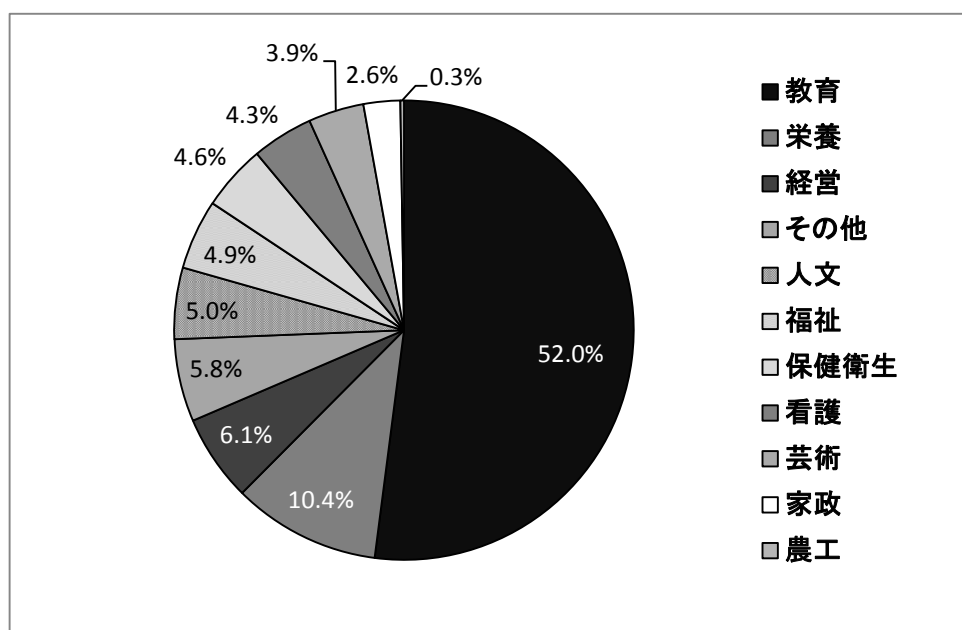
問 14 は、科目別の学習支援の現状と、今後そうした支援を希望するかを質問したものである。学習支援の現状を見ると、いずれの科目においてもわずかなパーセンテージにとどまっている。しかし、今後学習支援を受けたい者の割合は、英語では 35.6%、文章表現は 42.7%となっており、一定の学習支援ニーズが見られる。

[15] 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。



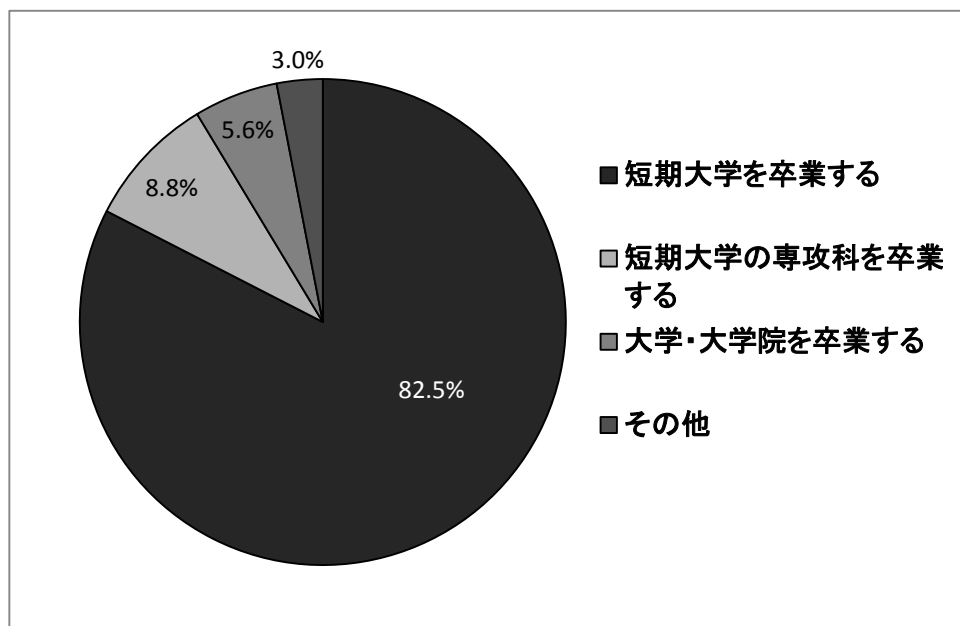
問 15 は、大学生生活の様々なことがらの頻度を訪ねた項目である。授業への遅刻や欠席に関する項目は少なく、宿題の提出も概ね問題なくなされ、全体的にみると真剣に授業に関わる姿勢がみられる。しかし、「ときどきした」と「ひんぱんにした」を合わせると「授業をつまらなく感じた」は 72.4%、「授業中に居眠りをした」は 68.9%に及び、両項目共に「ひんぱんにした」だけでも 20%を超えており、授業内容や方法には一定の不満があるように見える。授業内容の改善や向上によって、より短大生の興味・関心を引く授業を展開できるのではないだろうか。

[16] あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。



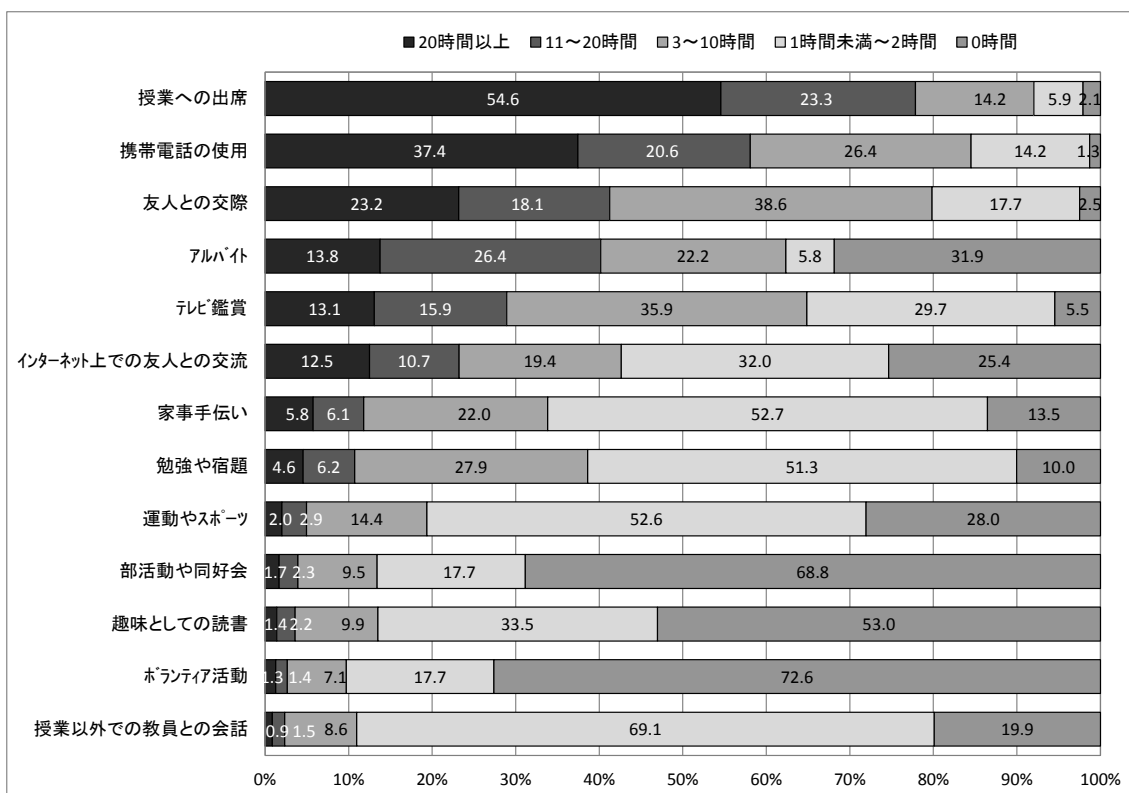
短大生の専攻分野は、「教育」が最も多く 52.0%、続いて、「栄養」が 10.4%、「経営」が 6.1%である。以降は、「その他」、「人文」、「福祉」、「保健衛生」、「看護」、「芸術」、「家政」、「農工」の順番である。

[17] あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。



短大生の 82.5%が短大の卒業を目標としている。

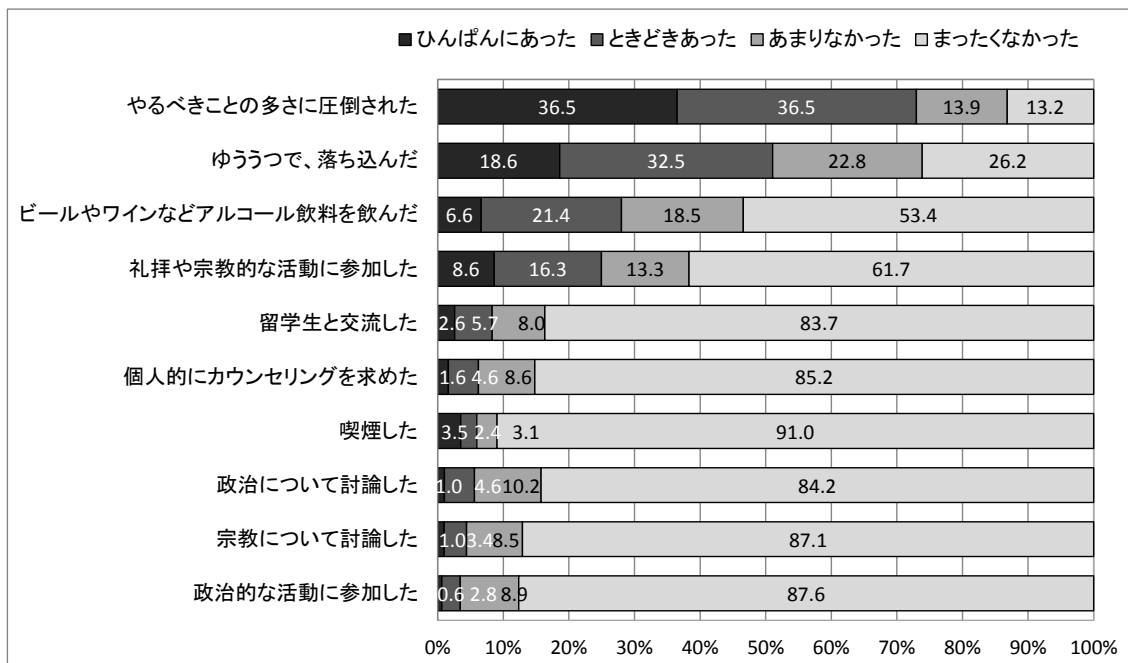
[18] あなたは今年度、次の活動に1週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか。



問 18 は、一週間のうち各項目に費やした時間を尋ねた項目である。20 時間以上費やされている項目のパーセンテージが多いものは、「授業への出席」(54.6%)、「携帯電話の使用」(37.4%)、友人との交際(23.2%)である。0 時間となっている項目のパーセンテージが多いものは、「ボランティア活動」(72.6%)、「部活動や同好会」(68.8%)、「趣味としての読書」(53.0%)である。

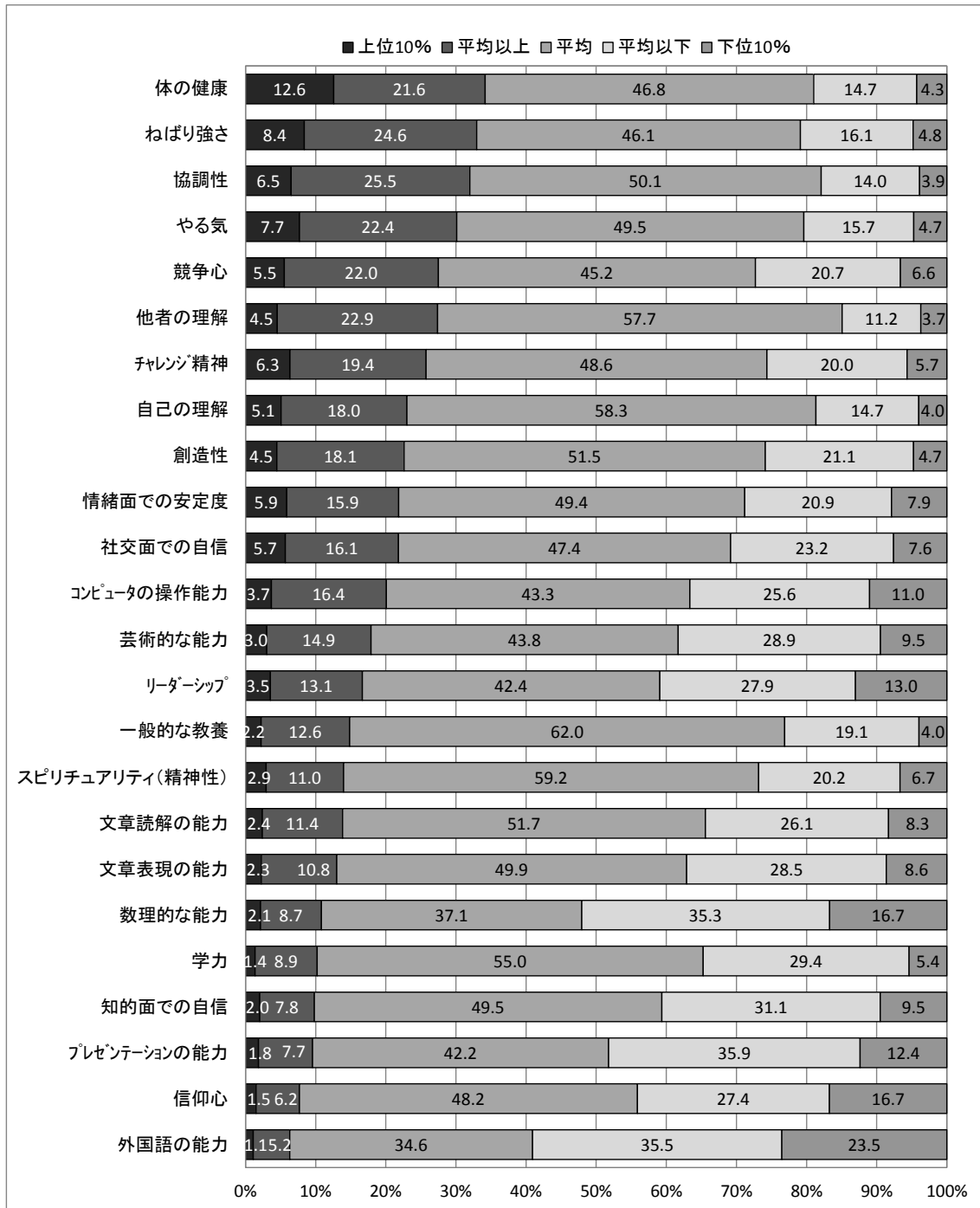


[19] あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか。



問 19 は、各項目の経験の頻度を尋ねた質問である。「ひんぱんにあった」及び「ときどきあった」のパーセンテージが多い項目は、「やるべきことの多さに圧倒された」と「ゆううつで落ち込んだ」である。特に、「やるべきことの多さに圧倒された」については、36.5%の短大生が「ひんぱんにあった」と回答をしており、一定数の短大生が強いストレスの中で学生生活を送っていることを示していると考えられる。

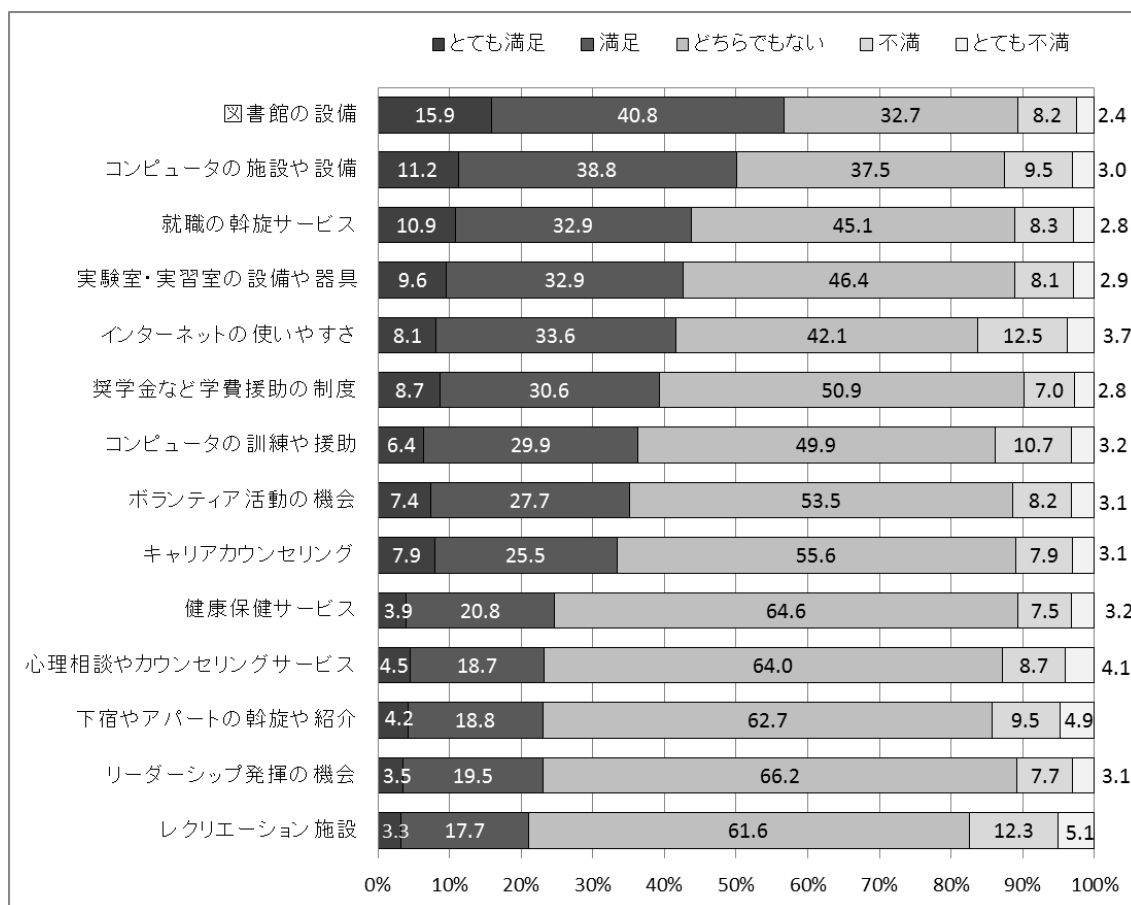
[20] あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。



問 20 は、同年齢の短大生と比較して、各項目の自己評価の高低を尋ねた問いである。「平均以上」と「上位 10%」を合わせたパーセンテージが、「平均以下」、「下位 10%」を合わせたパーセンテージより高い（自己評価が高い）傾向にある項目を見ると、「体の健康」、「協調性」、「他者の理解」、「ねばり強さ」、「やる気」、「自己の理解」、「競争心」、「チャレンジ精神」が挙げられる。

一方、自己評価が低い傾向にある項目を見ると、「外国語の能力」、「数理的な能力」、「プレゼンテーション能力」、「信仰心」、「知的面での自信」である。「学力」についても低く、学習面に関する項目については、全般的に自己評価が低い傾向がみられた。

[21] あなたは、本学の次のことがらに、どの程度満足していますか。

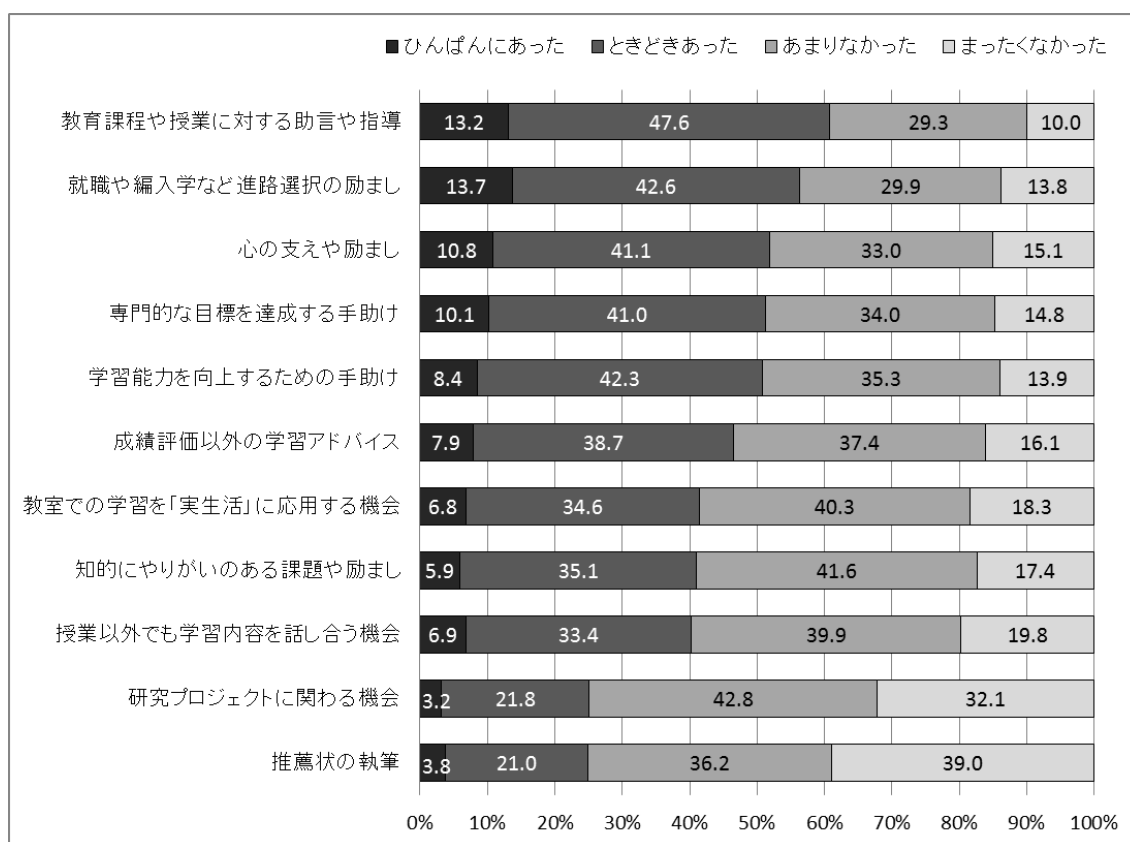


教育や学生のキャンパス・ライフを支える設備や支援制度について、短大生の満足度はどのようになっているのか。短大の設備や学生支援制度に関する満足度を尋ねた問 21 の回答分布について見てみる。なお、この設問における評価は「とても満足－満足－どちらでもない－不満－とても不満－わからない」の 6 段階評価であるが、ここでは「わからない」を欠損値として扱っている。以下、表記する項目の隣の数値は、「とても満足」と「満足」を合計した回答割合である。

短大の設備や学生支援制度について、半数前後の短大生が満足していると回答した項目は、満足度が高い順に「図書館の設備」(56.7%)と「コンピュータの施設や設備」(50.0%)、「就職の斡旋サービス」(43.8%)、「実験室・実習室の設備や器具」(42.5%)、「インターネットの使いやすさ」(41.7%)である。これに「奨学金など学費援助の制度」(39.3%)、「コンピュータの訓練や援助」(36.3%)、「ボランティア活動の機会」(35.1%)、「キャリアカウンセリング」(33.4%)が続いている。

比較的満足度の高い項目を見ると、図書館や PC の環境、実験・実習室といった授業等で日常的に使用する設備や施設に関しての満足度が高くなる傾向にある。また就職の斡旋サービスやキャリアカウンセリング、奨学金などの学費援助制度についても 4 割程度の短大生が満足を示していることから、学習をする環境として短大側は学生のニーズに応じていると考えられる。

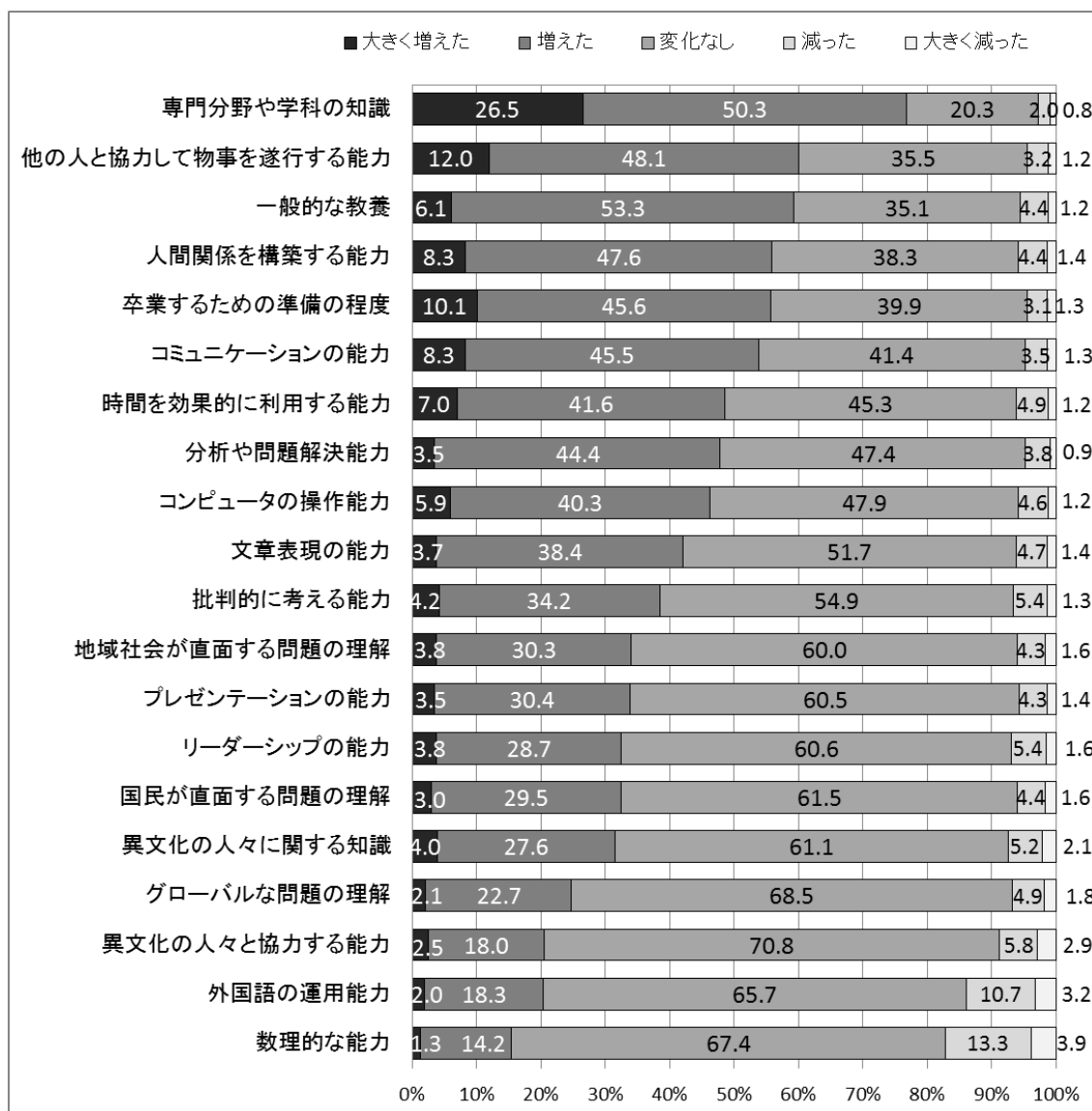
〔22〕 本学の短大教員は、あなたに次のような活動をどのくらい提供しましたか。



問 22 では、短大教員が短大生に対して、以下に提示する活動をどれくらい提供しているかについて尋ねている。表記する項目の隣の数値は、「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」の回答割合の合計である。

半数以上の短大生が「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」と答えた、教員から提供された活動は、「教育課程や授業に対する助言や指導」(60.8%)や「就職や編入学など進路選択の励まし」(56.3%)、「心の支えや励まし」(51.9%)、「専門的な目標を達成する手助け」(51.1%)、「学習能力を向上するための手助け」(50.7%)といった活動である。この他に教員からの関わりが多かったものとして、「成績評価以外の学習アドバイス」(46.6%)、「教室での学習を「実生活」に応用する機会」(41.4%)、「知的にやりがいのある課題や励まし」(41.0%)、「授業以外でも学習内容を話し合う機会」(40.3%)といった項目があり、4割以上の短大生が教員からこの種の関与が「あった」と回答している。上記に挙げた項目の特徴として、短大生は教員から学習活動に関する支援やアドバイスを多く受けている。また今回の結果を見る限り、短大教員は短大生に対して授業に関することにとどまらず、進路や精神的なケアなど多岐にわたって積極的な関与を行っていることがうかがえる。

[23] 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。



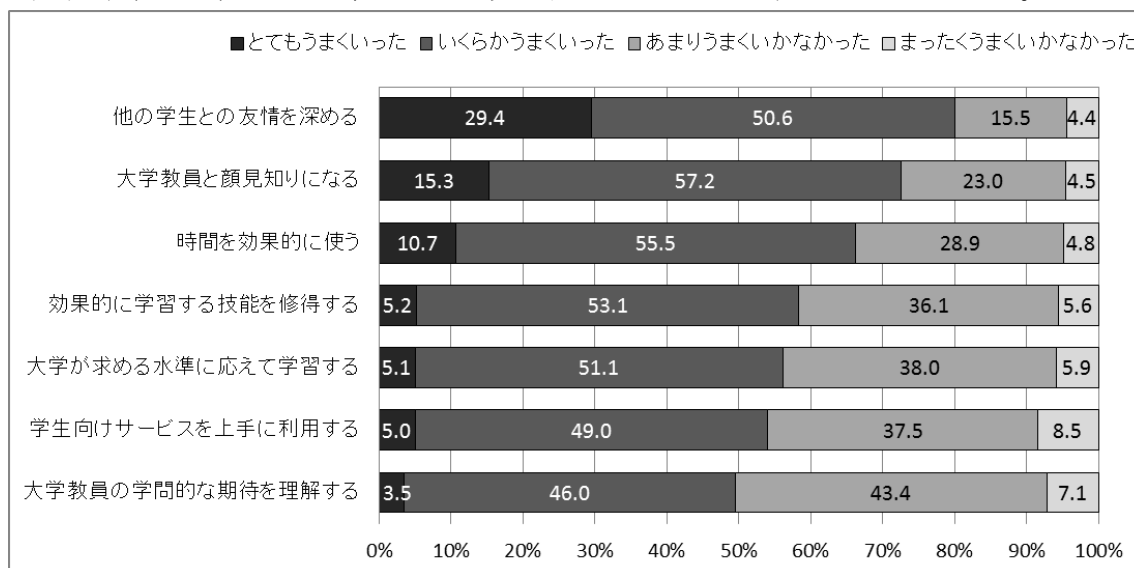
問 23 では短大入学後の学生の知識・技能の獲得についてその変化状況を尋ねている。以下に提示する項目内容の横の数値は「大きく増えた」と「増えた」といった増加割合の合計である。

能力が伸長したと答えた割合が最も高いのは「専門分野や学科の知識」(76.8%)であることから、多くの短大生が自分の進学した学部・学科の専門教育から知識や技能の習得を実感していることがわかる。「一般的な教養」も 59.4%となっていることから、専門教育だけでなく教養教育についても短大として力を入れていることがうかがえる。これら以外に半数以上の短大生が増えたと実感しているものは「他の人と協力して物事を遂行する能力」(60.1%)、「人間関係を構築する能力」(55.9%)、「卒業するための準備の程度」(55.7%)、「コミュニケーションの能力」(53.8%)である。ここで注目すべきは、対人関係を構築する際に必要となる能力(協調性、人間関係、コミュニケーション)が高い割合で獲得されていることである。4 割以上の短大生が入学後に増加したとしている能力は、「時間を効果

的に利用する能力」(48.6%)、「分析や問題解決能力」(47.9%)、「コンピュータの操作能力」(46.2%)、「文章表現の能力」(42.1%)である。

一方で、3割台しか入学後に増えたと答えていない項目は「批判的に考える能力」(38.4%)、「プレゼンテーションの能力」(33.9%)、「リーダーシップの能力」(32.5%)、「地域社会が直面する問題の理解」(34.1%)、「国民が直面する問題の理解」(32.5%)、「異文化の人々に関する知識」(31.6%)となっている。増加割合が3割以下の項目は「グローバルな問題の理解」(24.8%)、「異文化の人々と協力する能力」(20.5%)、「外国語の運用能力」(20.3%)、「数理的な能力」(15.5%)の4項目である。この辺りの能力については、短大各々のカリキュラムや設置科目等の違いにより、学生側の能力獲得に差があることが予想されるが、プレゼンテーション能力などはFDによる指導法などにより改善が見込まれる部分である。

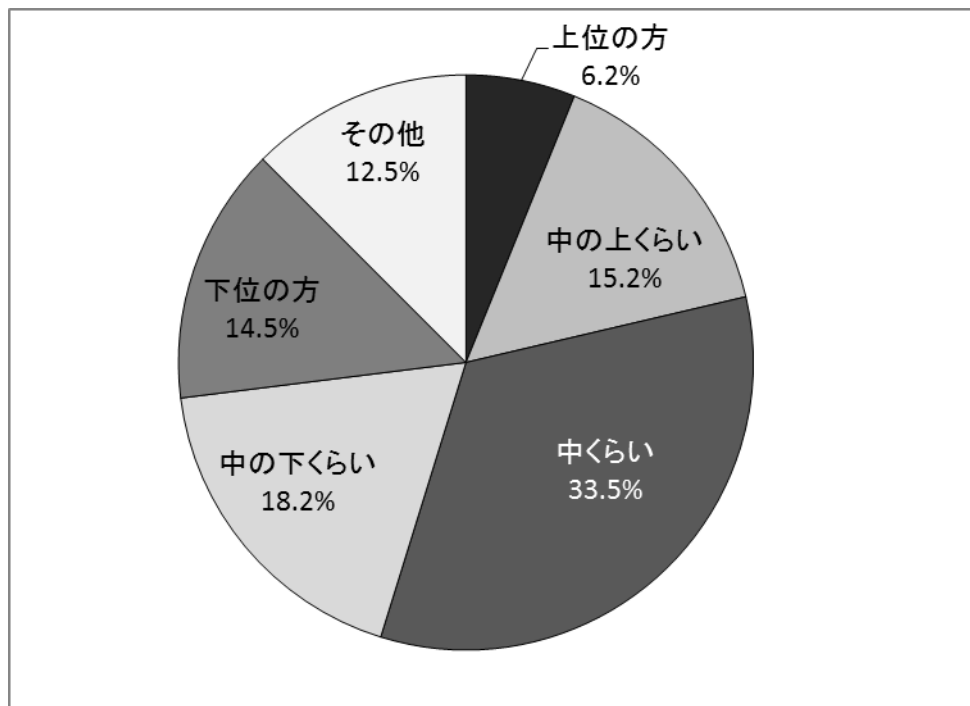
[24] 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。



問24では、短大入学後に人間関係や学習環境などにうまく適応できたかどうかを尋ねている。ここでも「とてもうまくいった」と「いづらかうまくいった」の割合を足したものを項目の隣に提示する。

全体の回答傾向としては「うまくいった」といった肯定的な回答をした短大生が多くなっていた。このうち特に割合が高いのが「他の学生との友情を深める」(80.0%)と「大学教員と顔見知りになる」(72.5%)の2つの項目であり、学生生活において友人や教員と良好な人間関係を築いていることがうかがえる。これらに続いて「時間を効果的に使う」(66.2%)や「効果的に学習する技能を修得する」(58.3%)、「大学が求める水準に応じて学習する」(56.2%)、「学生向けサービスを上手に利用する」(54.0%)となっており、半数を超える短大生が学生生活にうまく適応できていると回答している。「大学教員の学問的な期待を理解する」(49.5%)は他の項目より若干肯定回答の割合が低い、ほぼ半数の短大生は授業等での教員の期待について概ね理解しているとわかる。

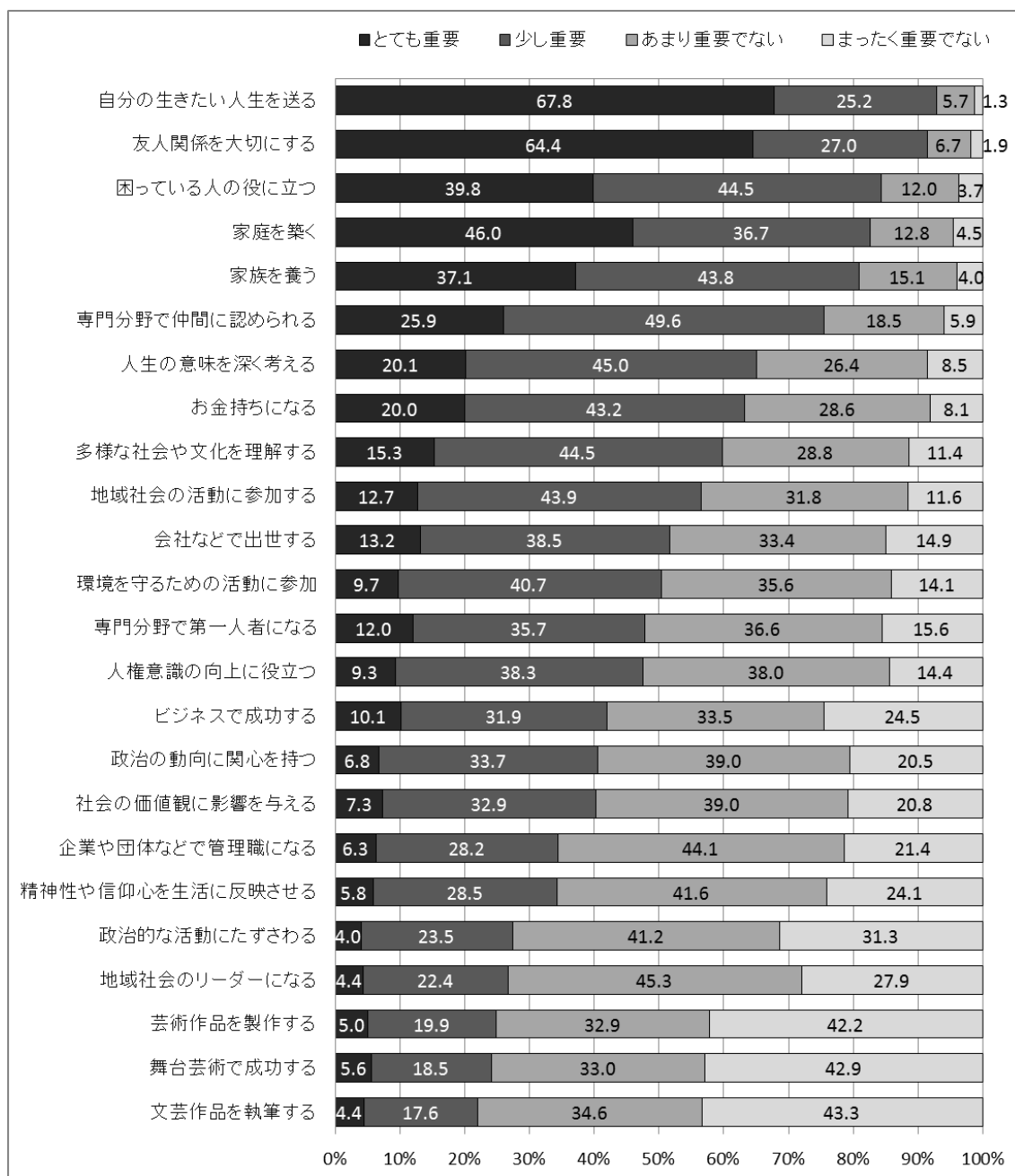
[25] あなたの本学での成績はどれくらいですか。



回答時の成績の自己評価について問 25 で聞いている。これを見ると、最も回答が多いのは「中くらい」の 33.5%であり、成績中位者が全体の 3 分の 1 を占めている。また「上位の方 (6.2%)」や「中の上くらい (15.2%)」といった成績上位層は 5 人に 1 人程度いる。「中の下くらい (18.2%)」と「下位の方 (14.5%)」の成績下位者は全体の約 3 割である。



[26] あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

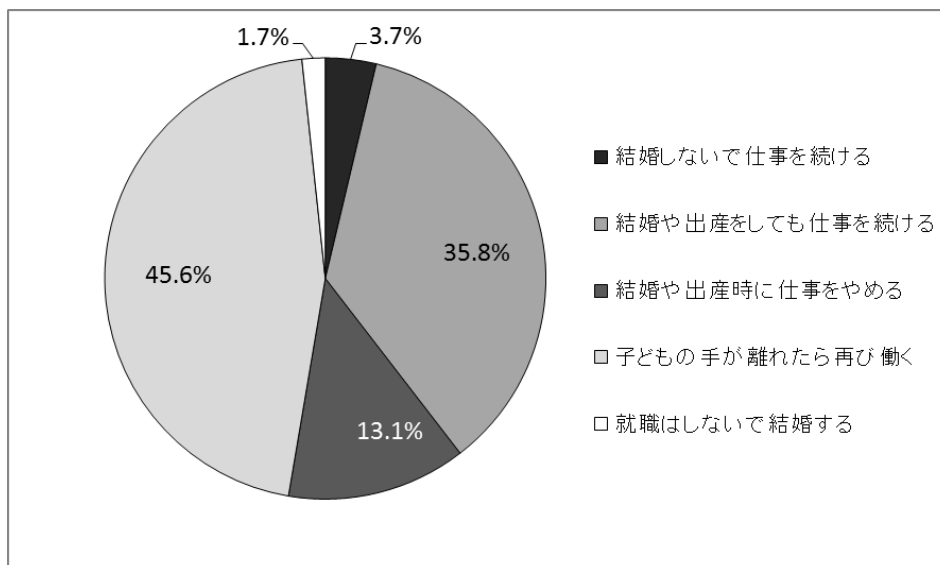


問 26 では、短大生が人生を送るうえで重要だと思うものは何かという、短大生の持つ価値観について尋ねている。なお、項目の隣の数字は「とても重要」と「少し重要」を足した割合である。

短大生が人生において重要だと考えている項目についてみると、重要度が高い順に「自分の生きたい人生を送る」(93.0%)、「友人関係を大切にする」(91.4%)であり、ほとんどの短大生がこの 2 つの項目に関して重要だとしている。この他に「困っている人の役に立つ」(84.3%)、「家庭を築く」(82.7%)、「家族を養う」(80.9%)についても約 8 割の短大生が重要だとみなしている。上記以外に半数以上の人重要だと思っている項目は、「専門分

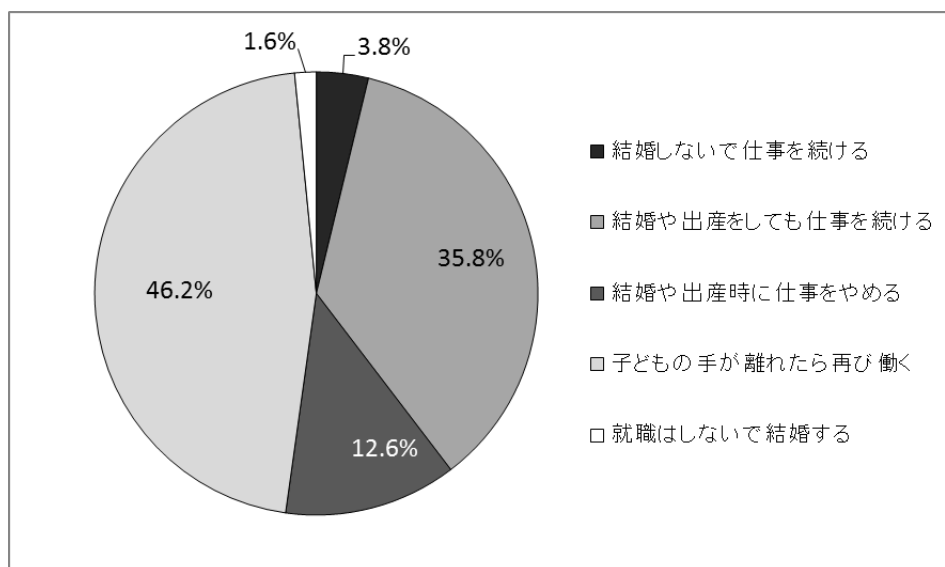
野で仲間認められる」(75.5%)、「人生の意味を深く考える」(65.1%)、「お金持ちになる」(63.2%)、「多様な社会や文化を理解する」(59.8%)、「地域社会の活動に参加する」(56.6%)などである。これらの重要度が高い項目の特徴としては、自分の人生の意義を考え、自己決定を下すことを重視し、また家族や友人、仲間を中心に良好な関係を築きたいという願望が垣間見える。それと同時に自分以外の他者に対しての貢献や、地域社会などへ何らかの貢献をしたいという意識を持っていることがわかる。

[27-1] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。(全体)



[27-2] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

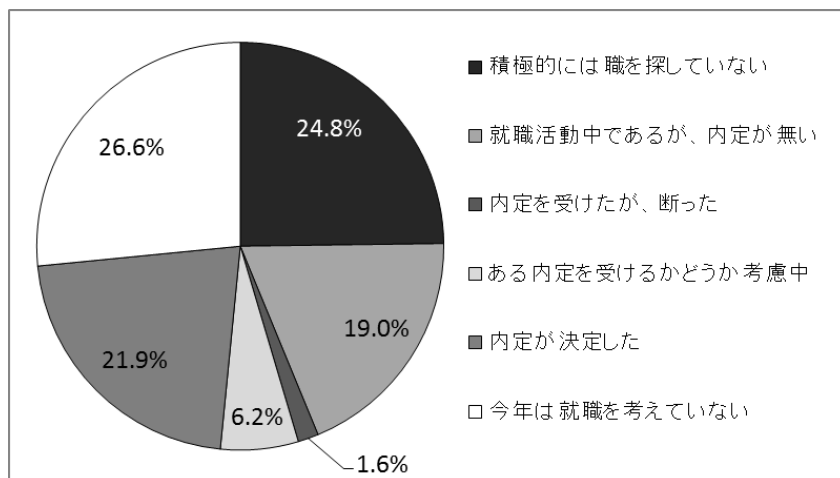
(女子学生のみ)



今後社会へと進む短大生は一体どのようなキャリア・イメージを持っているのか。それについて尋ねた問 27 の回答分布は次のようになっている。なお、27-2 は 10695 名の全回答のうち、設問内容から男子学生 930 名と無回答などを除いた女子学生 9731 名のみを分析対象としている。

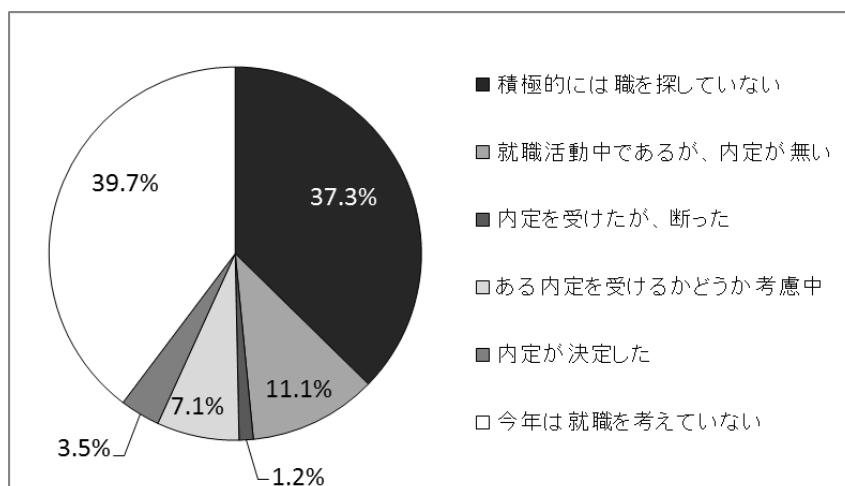
女子学生のみでの回答分布は、「結婚しないで仕事を続ける」(3.8%)、「結婚や出産をしても仕事を続ける」(35.8%)、「結婚や出産時に仕事をやめる」(12.6%)、「子どもの手が離れたら再び働く」(46.2%)、「就職はしないで結婚する」(1.6%)となっている。これらの回答から、結婚や出産の有無、一時離職したとしても何らかの形で働きたいと思っている女子学生がほとんどであることがうかがえる。

[28-1] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。(全体)



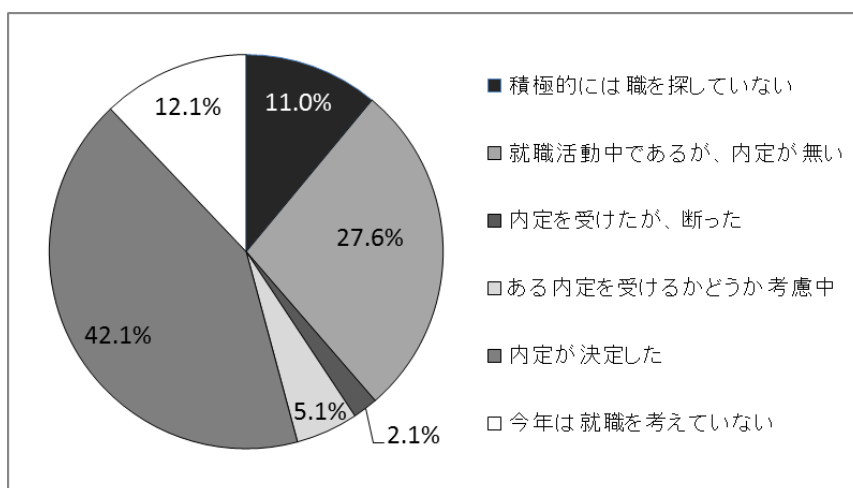
[28-2] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

(1年生のみ)



[28-3] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

(2年生以上)

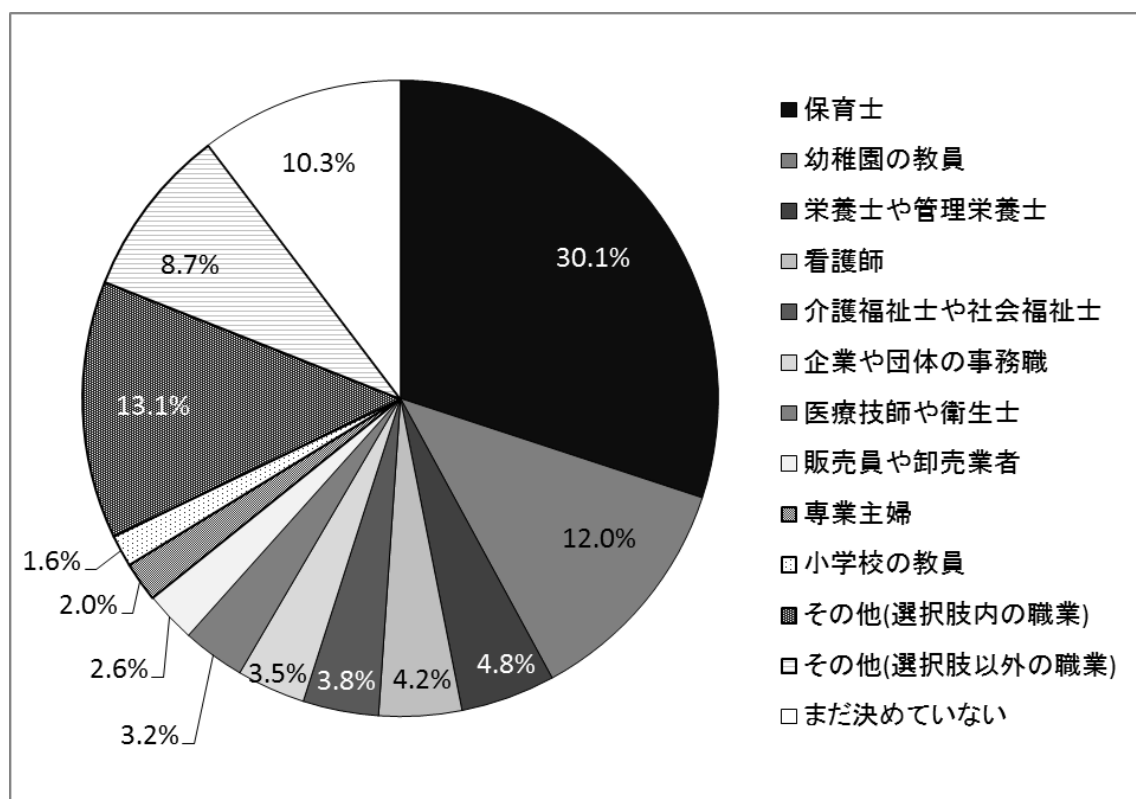


問 28 では現在就職活動をしている（した）短大生を対象に、現在の活動状況を尋ねている。

これをみると、回答割合は「積極的には職を探していない」(24.8%)、「就職活動中であるが、内定が無い」(19.0%)、「内定を受けたが、断った」(1.6%)、「ある内定を受けるかどうか考慮中」(6.2%)、「内定が決定した」(21.9%)、「今年は就職を考えていない」(26.6%)となっている。これらより、回答時点で何らかの内定を受けた経験がある短大生は回答全体の約 30%いることがわかる。その一方で「積極的には職を探していない」と「今年は就職を考えていない」を合計すると 51.4%なので、回答時点で就職活動を行っていない、もしくは一切行っていない短大生が 5 割以上いると読み取れる。ただこの背景には、専門分野によって就職活動の時期が異なること、また就職活動は主に「2 年生以上」であり 1 年生が活動自体を行っていないと考えられる。

それを確認するために学年別の傾向を見てみると、まず 1 年生のみの回答割合では「積極的には職を探していない」(37.3%)、「今年は就職を考えていない」(39.7%)であることから、約 8 割の 1 年生は就職活動を行っていない。「就職活動中であるが、内定が無い」(11.1%)や「内定を受けたが、断った」(1.2%)、「ある内定を受けるかどうか考慮中」(7.1%)、「内定が決定した」(3.5%)であるので、就職活動を積極的に行っている 1 年生は 2 割前後である。一方で 2 年生以上の回答割合では、「積極的には職を探していない」(11.0%)、「今年は就職を考えていない」(12.1%)と就職活動していない 2 年生は 2 割であるが、内定の有無に関わらず何らかの就職活動をしている（した）割合が 8 割となっている。内訳は「就職活動中であるが、内定が無い」(27.6%)、「内定を受けたが、断った」(2.1%)、「ある内定を受けるかどうか考慮中」(5.1%)、「内定が決定した」(42.1%)である。以上より現在就職活動をしていない短大生の多くが 1 年生であり、就職活動をしている、また内定を受けた多くの短大生が 2 年生以上であるとわかる。

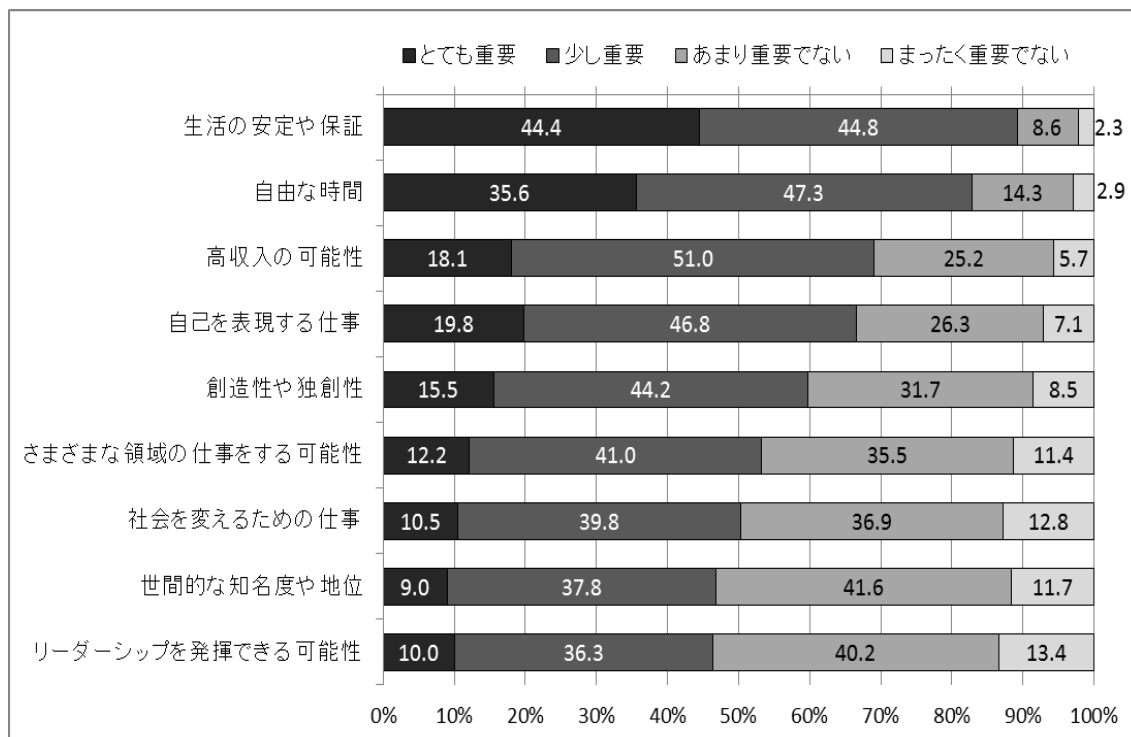
[29] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。



問 29 は将来どのような職業やキャリアに就きたいかを尋ねた設問である。この設問では 55 の職業のうち 1 つを選択するように求めており、ここでは特に回答割合が高い職業のうち上位 10 位までを整理し説明する。なお、無回答者 615 人を除いた 10080 名が有効回答となっている。この設問全体の回答状況は第二部 集計一覧を参照いただきたい。

回答時点で何らかの職業・キャリアを志望している短大生は全体の 89.7%であり、キャリア未決定の短大生は 10.3%である。次に、志望度が高い上位 10 位までの職業は、「保育士」(30.1%)、「幼稚園の教員」(12.0%)、「栄養士や管理栄養士」(4.8%)、「看護師」(4.2%)、「介護福祉士や社会福祉士」(3.8%)、「企業や団体の事務職」(3.5%)、「医療技師や衛生士」(3.2%)、「販売員や卸売業者」(2.6%)、「専業主婦」(2.0%)、「小学校の教員」(1.6%)となっている。これらから今回の調査で回答をした短大生のうち全体の 4 割が「保育士」や「幼稚園の教員」といった幼育関連施設で働くことを志望していることがわかる。

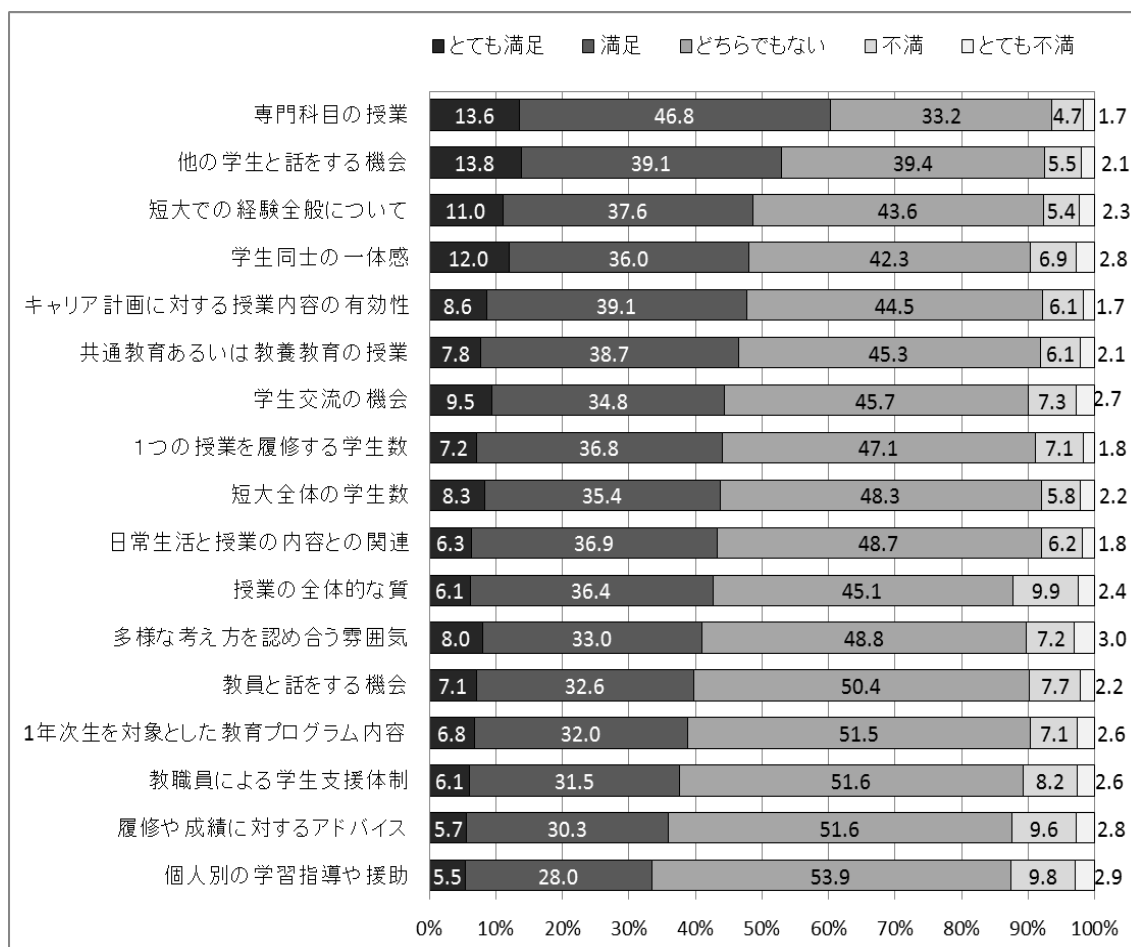
〔30〕 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらほどの程度重要ですか。



問 30 ではキャリアを選択する際に、どのようなことを重視するのかを尋ねている。なお、項目の隣の数字は「とても重要」と「少し重要」の合計割合である。

これを見ると、キャリアを考えるにあたって大半の短大生が重要だとみなしている項目は、「生活の安定や保証」(89.2%)、「自由な時間」(82.9%)、「高収入の可能性」(69.1%)、である。この他に「自己を表現する仕事」(66.6%)、「創造性や独創性」(59.7%)と「さまざまな領域の仕事をする可能性」(53.2%)が続く。上記の回答傾向から、生活の基盤となる収入が十分に保障され、自己実現可能な仕事ができ、余暇などの自由な時間が確保できることを短大生は重視している傾向にある。また仕事に自分独自の感性や発想を求めたり、色々な仕事ができることを求めたりする短大生が多くなっていた。

[31] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。



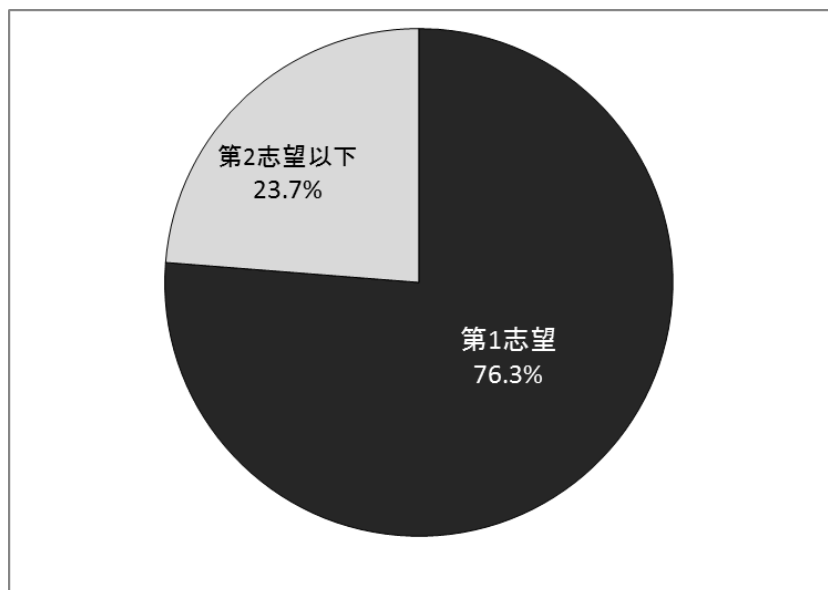
短大の教育全般に対して短大生はどの程度満足しているのかについて、問 31 の 17 項目で聞いている。なお問 31 については問 21 同様、各設問項目は「とても満足—満足—どちらでもない—不満—とても不満—わからない」の 6 段階評価で構成されているが、ここでは「わからない」は欠損値として扱って省略している。また各項目名の隣にある数字は「とても満足」と「満足」と回答した割合の合計値である。

回答分布を見ると、半数以上の学生が満足感を得ている項目は「専門科目の授業」(60.4%)と「他の学生と話をする機会」(52.9%)の 2 項目である。またこれらに続いて「短大での経験全般について」(48.6%)、「学生同士の一体感」(48.0%)、「キャリア計画に対する授業内容の有効性」(47.7%)、「共通教育あるいは教養教育の授業」(46.5%)、「学生交流の機会」(44.3%)、「1つの授業を履修する学生数」(44.0%)、「短大全体の学生数」(43.7%)、「日常生活と授業の内容との関連」(43.2%)、「授業全体の質」(42.5%)、「多様な考え方を認め合う雰囲気」(41.0%)であり、これら 10 項目で 40%以上の短大生が満足を示している。

ただ、満足度が 3 割台の項目には「教員と話をする機会」(39.7%)、「教職員による学生支援体制」(37.6%)、「履修や成績に対するアドバイス」(36.0%)、「個人別の学習指導や援助」(33.5%)などがある。学習に関する支援や学生支援、教員と接する機会などを増やす施策を行うことでこれらの満足度は上がるのではないかと予想される。

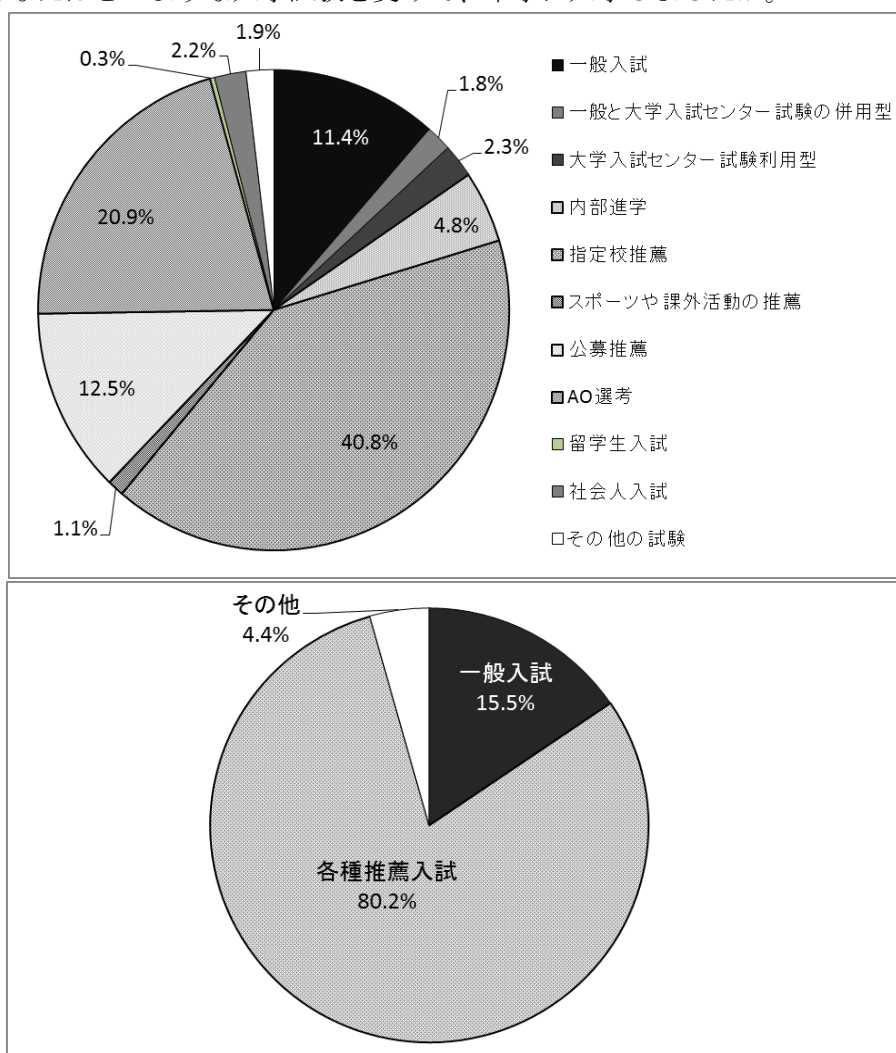


[32] あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。



現在進学している短大の志望順位について問 32 で尋ねている。「第 1 志望」であると答えた短大生は全体の 76.3%、「第 2 志望以下」は 23.7%となっている。このことから、4 人中 3 人が現在所属している短大を志望して進学していることがわかる。

[33] あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。

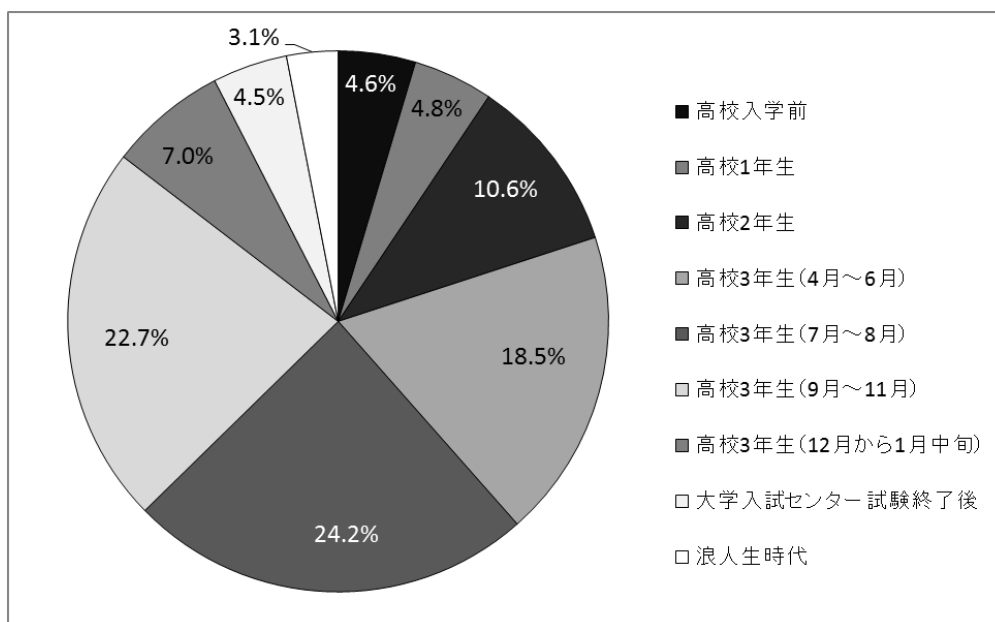


問 32 から多くの短大生が第 1 志望の短大に進学していることがわかったが、一体どのような入試方式を通して進学してきたのだろうか。問 33 では入試方式について聞いている。

これを見ると、最も多いのは「指定校推薦」(40.8%)であり、4 割の短大生がこの方式によって短大に進学している。これに「AO 選考」(20.9%)、「公募推薦」(12.5%)や「一般入試」(11.4%)が続いている。これら 4 つの入試方式によって短大生の約 8 割が入学している。

次に 11 の入試方式を 3 つに分類し直してその割合を見ていく。この分類は、1 つ目は「一般入試」、「一般入試と大学入試センター試験の併用型」、「大学入試センター試験利用型」をひとくくりとする学力入試を伴った「一般入試」区分である。2 つ目は「各種推薦入試」であり、この区分は「内部進学」、「指定校推薦」、「スポーツや課外活動の推薦」、「公募推薦」、「AO 選考」の 5 つの入試方式をまとめている。そして 3 つ目は「その他」の入試であり、「留学生入試」と「社会人入試」、「その他の試験」を合わせている。この 3 区分によると学力選抜試験を伴った「一般入試」による進学者は全体の 15.5%であり、「各種推薦入試」の進学者が 80.2%を占めている。このことより、5 人中 4 人が一般学力選抜によらない入試方式によって短大に進学していることがわかる。

[34] あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。

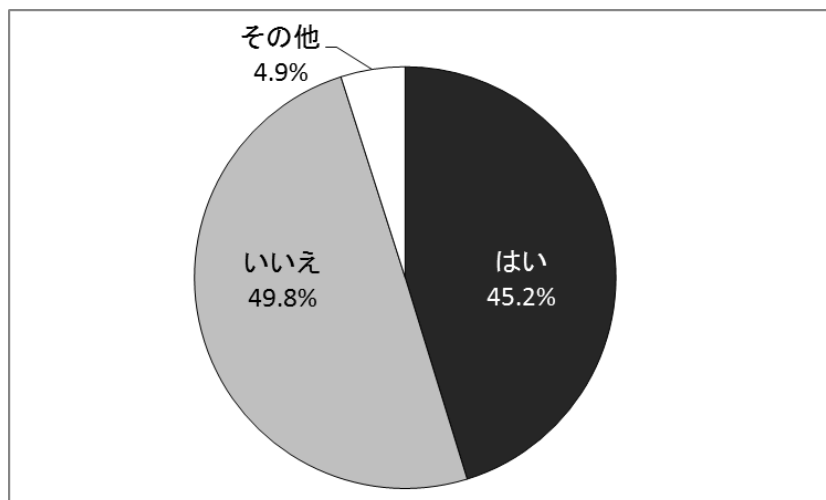


問 34 では短大生が現在の短大への進学をいつ頃決めたかについて尋ねている。

まず進学決定時期の回答割合が最も高いのは「高校3年生(7～8月)」の24.2%であり、これに「高校3年生(9～11月)」の22.7%が続く。また「高校3年生(4～6月)」も18.5%である。これらから、高校3年生の始業の4月から夏休みの終わる8月までに受験を決定した回答者は全体の42.7%である。「高校入学前」(4.6%)、「高校1年生」(4.8%)、「高校2年生」(10.6%)より、高校3年生以前に進学を決めている層も2割程度いる。

高校入学前から高校3年生の二学期始業までに志望校を決定していた短大生が6割いる背景の一つに、先の設問から各種推薦入試による進学が進学者全体の大半を占めていることが少なからず関係していると考えられる。推薦入試は一般入試に比べ募集開始時期が早く、余裕をもって試験対策等の準備をするために、高校3年生の1学期前後には志望短大の受験を決定するケースが多くなると予想される。

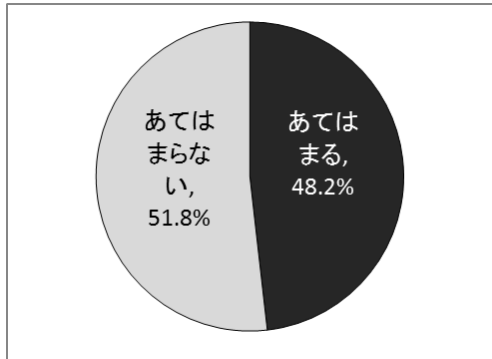
[35-1] あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人いらっしゃいますか。



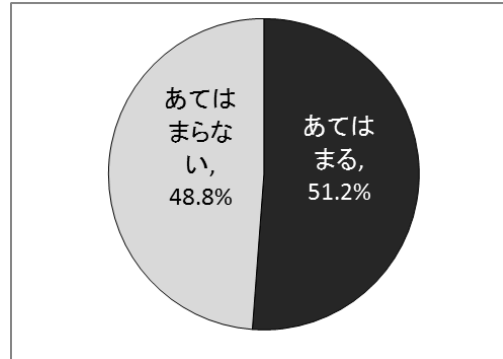
問 35 は短大生の家族内に大学や短大といった高等教育機関卒業者がいるかどうか尋ねている。これを見ると、家族内に高等教育機関卒業者がいると回答した短大生は 45.2%で、誰もいないと回答したのが 49.8%となっている。

〔35-2〕 ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか。

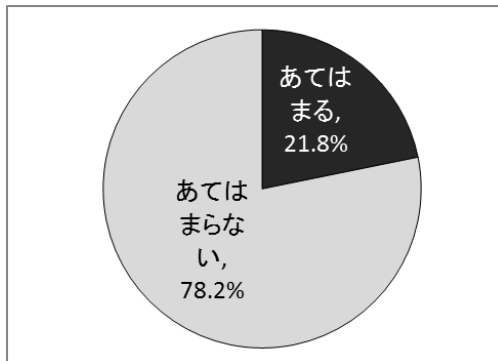
・父親



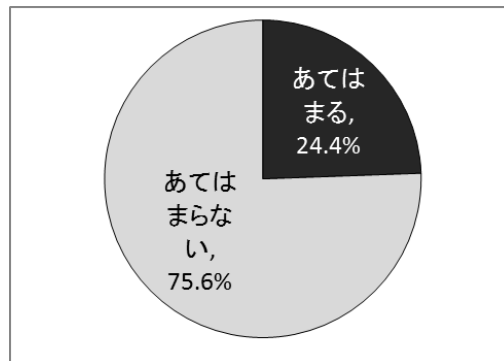
・母親



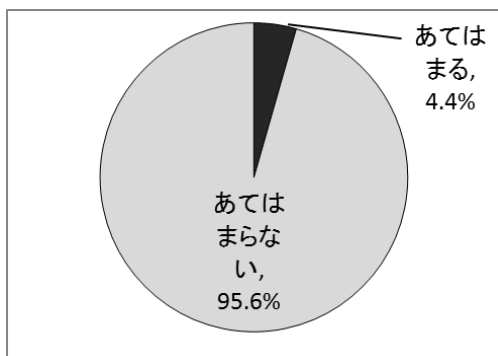
・兄弟



・姉妹



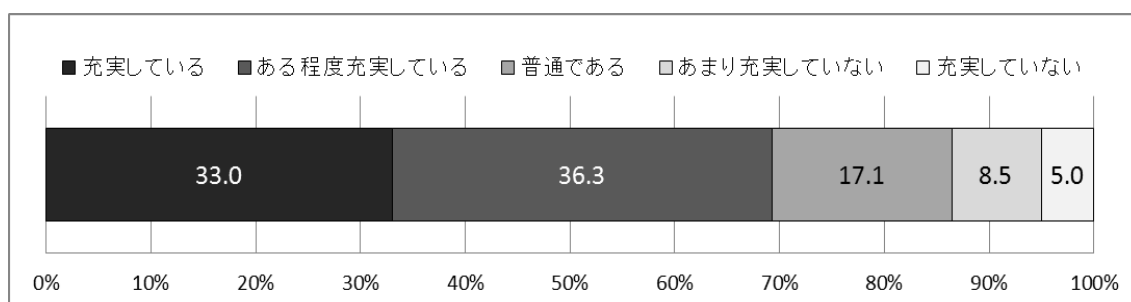
・その他



次に問 35-1 で家族内に高等教育卒業者がいると答えた短大生（該当者 4640 名）に対して、家族のうち誰が卒業しているのかどうかを聞いたところ、次のような回答状況になった。なお、この設問は複数回答可としている。これを見ると、「父親」が高等教育卒業者である短大生の割合が 48.2%、「母親」がそうである短大生の割合は 51.2%となっている。なお回答者のうち、両親の高等教育卒業の有無を組み合わせた結果、両親ともに高等教育卒業が 1216 名（26.2%）、父親のみ卒業が 1020 名（22.0%）、母親のみ卒業が 1159 名（25.0%）、どちらも卒業していないが 1245 名（26.8%）だった。自分の「きょうだい」については、

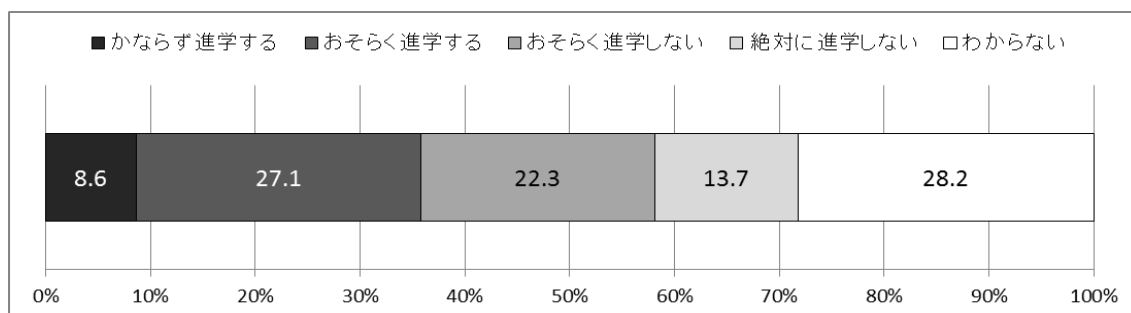
「兄弟」の 21.8%、「姉妹」の 24.4%が高等教育を受けた（受けている）と回答していた。両親のいずれかは大学及び短大を卒業しており、子どもに対しても自分たちと同じように高等教育機関に進学させていると考えられる。

[36] あなたの学生生活は充実していますか。



短大生の学生生活全般に対する充実感について問 36 で尋ねた結果、次のような回答が得られた。これを見ると「充実している」と回答した短大生は 33.0%、「ある程度充実している」と回答したのが 36.3%であることから、約 7 割の短大生が現在の学生生活に充実していることがわかる。それとは反対に「充実していない」と答えた短大生は 5.0%、「あまり充実していない」は 8.5%であった。この結果から、多くの短大生が短大での生活に充実感を感じている一方で、約 10%の短大生が充実感をあまり感じられない学生生活を送っていることが読み取れる。

[37] もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度、本学に進学しますか。



問 37 は短大生に対して「もし選び直せたら、もう一度本学に進学するか」どうかを尋ねている。これによると「かならず進学する」と回答した短大生は 8.6%、「おそらく進学する」は 27.1%となっている。このことから 3 割程度の短大生は現在所属している短大に再度進学したいと思っていることがわかる。しかしその一方で、「絶対に進学しない」と答えた短大生が 13.7%、「おそらく進学しない」は 22.3%となっており、3 割以上の短大生が選び直せたら同じ短大に進学するとは限らないと考えている。また「わからない」と答えた短大生も 28.2%もいて、回答時点で現在の短大が再度入学するにふさわしいかどうか、判断できない短大生も 3 割弱いる。

## 第2部 集計一覧

〔1〕 あなたの性別をお答えください。

	度数	パーセント
男性	930	8.7
女性	9731	91.3
合計	10661	100.0%
無回答	34	

〔2〕 今年度（2013年4月～2014年3月）、あなたは何歳になりますか。

	度数	パーセント
18歳以下	393	3.7
19歳	5129	48.1
20歳	4056	38.1
21-23歳	651	6.1
24-29歳	225	2.1
30-39歳	105	1.0
40-54歳	82	0.8
55歳以上	18	0.2
合計	10659	100.0%
無回答	36	

〔3〕 あなたは本学に何年度に入学しましたか。

	度数	パーセント
2年制	9220	86.9
3年制	1385	13.1
合計	10605	
無回答	90	100.0

〔4〕 あなたは本学に何年度に入学しましたか。

	度数	パーセント
2013(平成25)年度	5614	52.7
2012(平成24)年度	4544	42.7
2011(平成23)年度か、それ以前	495	4.6
合計	10653	
無回答	42	100.0

〔5〕 あなたの現在の在学状況を教えてください。

	度数	パーセント
1年生	5642	52.9
2年生	4687	43.9
3年生以上	313	2.9
その他(科目等履修生など)	23	0.2
合計	10665	
無回答	30	100.0

〔6〕 あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。

	度数	パーセント
実家または親戚の家	8002	75.0
アパートやマンション	1986	18.6
大学の寮や下宿	600	5.6
その他	77	0.7
合計	10665	
無回答	30	100.0

〔7〕 あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

	度数	パーセント
30分未満	3614	33.9
30分以上－1時間未満	3561	33.4
1時間以上－1時間30分未満	2132	20.0
1時間30分以上－2時間未満	1158	10.9
2時間以上	200	1.9
合計	10665	
無回答	30	100.0

〔8〕 あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

	度数	パーセント
上位の方	1213	11.4
中の上くらい	2449	23.0
中くらい	3230	30.3
中の下くらい	1931	18.1
下位の方	1427	13.4
その他	405	3.8
合計	10655	
無回答	40	100.0



〔9(1)〕 あなたの高校は公立（県立・市立など）、私立、国立のどれでしたか。

	度数	パーセント
公立	7148	67.0
私立	3353	31.4
国立	45	0.4
その他	120	1.1
合計	10666	
無回答	29	100.0

〔9(2)〕 あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。

	度数	パーセント
共学	9217	86.5
別学	1440	13.5
合計	10657	
無回答	38	100.0

〔10-1〕 あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（日本学生支援機構の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	6575	61.5
受けている	4120	38.5
合計	10695	100.0

〔10-2〕 あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（地方自治体の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	10377	97.0
受けている	318	3.0
合計	10695	100.0

〔10-3〕 あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（民間団体の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	10577	98.7
受けている	138	1.3
合計	10695	100.0

〔10-4〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（短大の奨学金や授業料免除）。

	度数	パーセント
受けていない	9706	90.8
受けている	989	9.2
合計	10695	100.0

〔10-5〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（その他の経済的援助）。

	度数	パーセント
受けていない	9946	93.0
受けている	749	7.0
合計	7102	100.0

〔11-1〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（単位を取得できなかった授業があった）。

	度数	パーセント
あてはまらない	8658	81.0
あてはまる	2037	19.0
合計	10695	100.0

〔11-2〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（学力不足を補うため補習授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	9591	89.7
あてはまる	1104	10.3
合計	10695	100.0

〔11-3〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（人権や民族に関する授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	8178	76.5
あてはまる	2517	23.5
合計	10695	100.0

〔11-4〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（女性学の授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	9832	91.9
あてはまる	863	8.1
合計	10695	100.0

〔11-5〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（リーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	10168	95.1
あてはまる	527	4.9
合計	10695	100.0

〔11-6〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（海外研修プログラムに参加した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	10469	97.9
あてはまる	226	2.1
合計	10695	100.0

〔11-7〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（他の大学や短大、高等専門学校などの科目を履修して卒業単位に算入した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	10451	97.7
あてはまる	244	2.3
合計	10695	100.0

〔11-8〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（他の大学や短大、高等専門学校などから転学した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	10645	99.5
あてはまる	50	0.5
合計	10695	100.0

〔12〕 あなたが本学に進学した理由として、次のことがらはどの程度重要でしたか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し重要	とても重 要	合計	無回答
親の希望だった	3891 36.6	3307 31.1	2777 26.1	668 6.3	10643 100.0	52
親以外の親族・親せきから進学を勧められた	7006 65.8	2369 22.3	997 9.4	271 2.5	10643 100.0	52
高校の先生に勧められた	4170 39.2	2675 25.2	2822 26.5	965 9.1	10632 100.0	63
予備校や塾で勧められた	8625 81.6	1343 12.7	479 4.5	124 1.2	10571 100.0	124
学費が適当であった	3924 37.0	2970 28.0	2688 25.3	1032 9.7	10614 100.0	81
奨学金が支給された	5421 51.3	1919 18.2	1797 17.0	1427 13.5	10564 100.0	131
自宅から通学できる	2059 19.4	1000 9.4	2804 26.4	4763 44.8	10626 100.0	69
就職に有利	1143 10.8	1561 14.7	3578 33.7	4346 40.9	10628 100.0	67
四年制大学より早く就職できる	2103 19.8	2380 22.4	3457 32.5	2686 25.3	10626 100.0	69
高校卒業後すぐに働きたくなかった	3754 35.4	2560 24.1	2551 24.0	1745 16.4	10610 100.0	85
本学で学ぶ内容に興味があった	795 7.5	1489 14.0	3995 37.6	4346 40.9	10625 100.0	70
専門学校より幅広い勉強ができる	1627 15.3	2773 26.1	3887 36.6	2338 22.0	10625 100.0	70
学生生活を楽しんでみたかった	1324 12.5	2115 19.9	4312 40.6	2875 27.1	10626 100.0	69
本学の校風に魅力があった	2336 22.0	3639 34.2	3391 31.9	1268 11.9	10634 100.0	61
本学のキャンパスがきれいだった	2726 25.7	3495 32.9	3076 29.0	1322 12.4	10619 100.0	76
資格をとるために必要だった	673 6.3	1032 9.7	2638 24.8	6299 59.2	10642 100.0	53
大学に編入することもできる	4285 40.4	3217 30.3	2009 18.9	1108 10.4	10619 100.0	76
推薦入試等で入学が早く内定した	2829 26.6	1724 16.2	2749 25.9	3315 31.2	10617 100.0	78

〔13〕 あなたは留学生ですか。(1つだけ選んで○をつけてください)

	度数	パーセント
はい	93	0.9
いいえ	10391	99.1
合計	10484	
無回答	211	100.0

〔14〕あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。

	特別な学習支援を現在		合計	特別な学習支援を今後	
	受けている	受けていない		受けたい	受けたくない
文章表現	684 8.1	7761 91.9	8445 100	2781 42.7	3729 57.3
数学	280 3.3	8101 96.7	8381 100	1376 21.0	5184 79.0
理科	395 4.7	8024 95.3	8419 100	1290 19.8	5221 80.2
英語	863 10.3	7481 89.7	8344 100	2344 35.6	4248 64.4

[15] 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。

	まったく しなかった	あまり しなかった	ときどき した	ひんぱんに した	合計	無回答
学際的な授業を履修した	3841 36.6	3504 33.4	2367 22.6	769 7.3	10481 100	214
自主的な学習プロジェクトに参加した	5180 48.9	3569 33.7	1507 14.2	329 3.1	10585 100	110
授業内容について他の学生と議論した	3010 28.3	3232 30.4	3419 32.2	959 9.0	10620 100	75
教員と懇親会を持った	7537 71.0	1757 16.5	1129 10.6	198 1.9	10621 100	74
スポーツに参加した	4735 44.6	2182 20.6	2279 21.5	1415 13.3	10611 100	84
提出期限までに宿題を完成できなかった	4371 41.1	3036 28.5	2659 25.0	569 5.4	10635 100	60
授業をつまらなく感じた	649 6.1	2292 21.6	5538 52.1	2154 20.3	10633 100	62
授業に遅刻した	3159 29.7	3051 28.7	3411 32.1	1009 9.5	10630 100	65
他の学生と一緒に勉強した	1570 14.8	1989 18.7	4513 42.5	2559 24.1	10631 100	64
ボランティア活動をした	4810 45.3	2276 21.4	2396 22.6	1135 10.7	10617 100	78
インターネットを使って授業課題を受けた	3335 31.4	1827 17.2	3363 31.7	2100 19.8	10625 100	70
インターネットを使って授業課題を提出した	2709 25.5	1767 16.6	3793 35.7	2349 22.1	10618 100	77
研究や宿題のためにWeb上の情報を利用した	1148 10.8	1358 12.8	4379 41.2	3732 35.2	10617 100	78
Web上でニュースを読んだ	2090 19.7	2368 22.3	3491 32.8	2682 25.2	10631 100	64
Web上でブログを読んだ	2606 24.5	2250 21.2	3173 29.8	2604 24.5	10633 100	62
Web上でブログを書いた	5670 53.3	2314 21.8	1696 15.9	955 9.0	10635 100	60
研究や宿題のために図書館を利用した	1787 16.8	2210 20.8	4187 39.4	2449 23.0	10633 100	62
アルバイトなどで授業を欠席した	7609 71.6	1754 16.5	1009 9.5	259 2.4	10631 100	64
その他の理由で授業を欠席した	2254 21.2	3548 33.4	3758 35.4	1067 10.0	10627 100	68
他の学生の学習補助をした	7188 67.7	2254 21.2	986 9.3	189 1.8	10617 100	78
短大の教職員に将来のキャリアの相談をした	3948 37.2	3064 28.8	2692 25.3	920 8.7	10624 100	71
授業中に居眠りをした	1060 10.0	2250 21.2	4844 45.6	2477 23.3	10631 100	64
取りたい授業を履修登録できなかった	7355 69.3	1906 18.0	1034 9.7	319 3.0	10614 100	81
楽器を演奏した	4760 44.8	1315 12.4	2048 19.3	2511 23.6	10634 100	61
オフィスアワーなどの時間に教員と面談した	5810 54.8	2956 27.9	1543 14.6	295 2.8	10604 100	91
授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	6209 58.4	3049 28.7	1121 10.6	244 2.3	10623 100	72
教員に親近感を感じた	2457 23.1	3372 31.7	3712 34.9	1083 10.2	10624 100	71

[16] あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。

	度数	パーセント
保健衛生	488	4.6
看護	456	4.3
農工	27	0.3
人文	531	5.0
経営	644	6.1
福祉	519	4.9
家政	273	2.6
栄養	1100	10.4
教育	5498	52.0
芸術	413	3.9
その他	615	5.8
合計	10564	100.0

[17] あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。

	短期大学 を卒業	短期大学の 専攻科を卒業	大学・大学院 を卒業	その他	合計	無回答
度数	8747	933	594	323	10597	98
パーセント	82.5	8.8	5.6	3.0	100.0	

[18] あなたは今年度、次の活動に1週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか。

	0時間	1時間 未満	1-2 時間	3-5 時間	6-10 時間	11-15 時間	16-20 時間	20時間 以上	合計	無回答
勉強や宿題	1067	2853	2607	2005	961	421	235	484	10633	62
	10.0	26.8	24.5	18.9	9.0	4.0	2.2	4.6	100.0	
授業への出席	221	279	343	494	1007	959	1510	5778	10591	104
	2.1	2.6	3.2	4.7	9.5	9.1	14.3	54.6	100.0	
友人との交際	264	701	1169	2104	1982	1155	760	2453	10588	107
	2.5	6.6	11.0	19.9	18.7	10.9	7.2	23.2	100.0	
授業以外での教員との会話	2111	5730	1609	649	266	106	52	92	10615	80
	19.9	54.0	15.2	6.1	2.5	1.0	0.5	0.9	100.0	
運動やスポーツ	2976	3343	2236	1065	464	206	106	215	10611	84
	28.0	31.5	21.1	10.0	4.4	1.9	1.0	2.0	100.0	
アルバイト	3379	266	348	831	1519	1564	1234	1461	10602	93
	31.9	2.5	3.3	7.8	14.3	14.8	11.6	13.8	100.0	
ボランティア活動	7694	1253	620	492	256	93	55	134	10597	98
	72.6	11.8	5.9	4.6	2.4	0.9	0.5	1.3	100.0	
部活動や同好会	7302	920	961	649	358	164	75	177	10606	89
	68.8	8.7	9.1	6.1	3.4	1.5	0.7	1.7	100.0	
テレビ鑑賞	578	1307	1841	2094	1715	1010	671	1387	10603	92
	5.5	12.3	17.4	19.7	16.2	9.5	6.3	13.1	100.0	
家事手伝い	1431	3260	2315	1502	828	410	232	609	10587	108
	13.5	30.8	21.9	14.2	7.8	3.9	2.2	5.8	100.0	
趣味としての読書	5619	2385	1161	708	341	151	83	147	10595	100
	53.0	22.5	11.0	6.7	3.2	1.4	0.8	1.4	100.0	
携帯電話の使用	136	536	971	1399	1404	1181	1008	3970	10605	90
	1.3	5.1	9.2	13.2	13.2	11.1	9.5	37.4	100.0	
インターネット上での友人との交流	2692	1930	1467	1181	881	663	476	1326	10616	79
	25.4	18.2	13.8	11.1	8.3	6.2	4.5	12.5	100.0	

〔19〕 あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどき あった	ひんぱ んにあっ た	合計	無回答
礼拝や宗教的な活動に参加した	6555 61.7	1418 13.3	1737 16.3	917 8.6	10627 100.0	68
政治的な活動に参加した	9317 87.6	946 8.9	298 2.8	69 0.6	10630 100.0	65
喫煙した	9663 91.0	328 3.1	259 2.4	374 3.5	10624 100.0	71
アルコール飲料を飲んだ	5677 53.4	1970 18.5	2273 21.4	705 6.6	10625 100.0	70
やるべきことの多さに圧倒された	1398 13.2	1472 13.9	3870 36.5	3873 36.5	10613 100.0	82
留学生と交流した	8892 83.7	852 8.0	610 5.7	273 2.6	10627 100.0	68
宗教について討論した	9254 87.1	907 8.5	362 3.4	106 1.0	10629 100.0	66
政治について討論した	8948 84.2	1079 10.2	486 4.6	109 1.0	10622 100.0	73
ゆううつで落ち込んだ	2778 26.2	2419 22.8	3450 32.5	1975 18.6	10622 100.0	73
個人的にカウンセリングを求めた	9049 85.2	915 8.6	485 4.6	174 1.6	10623 100.0	72



〔20〕あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことごとについてどのように自己評価しますか。

	下位 10%	平均 以下	平均	平均 以上	上位 10%	合計	無回 答
一般的な教養	423 4.0	2032 19.1	6588 62.0	1342 12.6	236 2.2	10621 100.0	74
学力	572 5.4	3121 29.4	5848 55.0	942 8.9	144 1.4	10627 100.0	68
芸術的な能力	1006 9.5	3067 28.9	4655 43.8	1581 14.9	321 3.0	10630 100.0	65
競争心	704 6.6	2195 20.7	4804 45.2	2333 22.0	587 5.5	10623 100.0	72
コンピュータの操作能力	1171 11.0	2719 25.6	4594 43.3	1743 16.4	390 3.7	10617 100.0	78
協調性	414 3.9	1490 14.0	5321 50.1	2705 25.5	692 6.5	10622 100.0	73
創造性	504 4.7	2245 21.1	5472 51.5	1925 18.1	475 4.5	10621 100.0	74
やる気	502 4.7	1663 15.7	5258 49.5	2382 22.4	816 7.7	10621 100.0	74
情緒面での安定度	838 7.9	2224 20.9	5242 49.4	1693 15.9	625 5.9	10622 100.0	73
リーダーシップ	1386 13.0	2964 27.9	4505 42.4	1395 13.1	376 3.5	10626 100.0	69
ねばり強さ	510 4.8	1709 16.1	4901 46.1	2610 24.6	890 8.4	10620 100.0	75
数理的な能力	1776 16.7	3753 35.3	3941 37.1	923 8.7	227 2.1	10620 100.0	75
体の健康	456 4.3	1561 14.7	4975 46.8	2293 21.6	1334 12.6	10619 100.0	76
プレゼンテーションの能力	1313 12.4	3812 35.9	4482 42.2	820 7.7	196 1.8	10623 100.0	72
チャレンジ精神	602 5.7	2123 20.0	5159 48.6	2063 19.4	672 6.3	10619 100.0	76
知的面での自信	1009 9.5	3306 31.1	5260 49.5	829 7.8	213 2.0	10617 100.0	78
社交面での自信	807 7.6	2466 23.2	5030 47.4	1713 16.1	602 5.7	10618 100.0	77
自己の理解	426 4.0	1557 14.7	6191 58.3	1907 18.0	537 5.1	10618 100.0	77
スピリチュアリティ	708 6.7	2140 20.2	6284 59.2	1173 11.0	312 2.9	10617 100.0	78
信仰心	1777 16.7	2905 27.4	5113 48.2	658 6.2	158 1.5	10611 100.0	84
他者の理解	393 3.7	1191 11.2	6126 57.7	2427 22.9	480 4.5	10617 100.0	78
文章表現の能力	916 8.6	3025 28.5	5298 49.9	1143 10.8	239 2.3	10621 100.0	74
文章読解の能力	882 8.3	2773 26.1	5494 51.7	1213 11.4	255 2.4	10617 100.0	78
外国語の能力	2494 23.5	3770 35.5	3674 34.6	552 5.2	115 1.1	10605 100.0	90

〔21〕あなたは、本学の次のことがらに、どの程度満足していますか。（※「わからない」を欠損値扱い）

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	(欠損値) わからない無回答	
コンピュータの施設や設備	301 3.0%	950 9.5%	3759 37.5%	3893 38.8%	1125 11.2%	10028 100.0%	582	85
コンピュータの訓練や援助	312 3.2%	1055 10.7%	4916 49.9%	2944 29.9%	633 6.4%	9860 100.0%	758	77
インターネットの使いやすさ	372 3.7%	1241 12.5%	4184 42.1%	3335 33.6%	806 8.1%	9938 100.0%	672	85
図書館の設備	247 2.4%	832 8.2%	3295 32.7%	4114 40.8%	1600 15.9%	10088 100.0%	518	89
実験室・実習室の設備や器具	254 2.9%	712 8.1%	4060 46.4%	2882 32.9%	842 9.6%	8750 100.0%	1841	104
就職の斡旋サービス	258 2.8%	752 8.3%	4086 45.1%	2977 32.9%	988 10.9%	9061 100.0%	1530	104
キャリアカウンセリング	263 3.1%	665 7.9%	4699 55.6%	2155 25.5%	670 7.9%	8452 100.0%	2151	92
奨学金など学費援助の制度	235 2.8%	581 7.0%	4251 50.9%	2551 30.6%	728 8.7%	8346 100.0%	2257	92
ボランティア活動の機会	272 3.1%	710 8.2%	4623 53.5%	2389 27.7%	641 7.4%	8635 100.0%	1962	98
健康保健サービス	248 3.2%	579 7.5%	4983 64.6%	1603 20.8%	302 3.9%	7715 100.0%	2885	95
下宿やアパートの斡旋や紹介	335 4.9%	653 9.5%	4325 62.7%	1301 18.8%	289 4.2%	6903 100.0%	3690	102
リーダーシップ発揮の機会	252 3.1%	639 7.7%	5466 66.2%	1611 19.5%	291 3.5%	8259 100.0%	2338	98
レクリエーション施設	397 5.1%	959 12.3%	4784 61.6%	1377 17.7%	253 3.3%	7770 100.0%	2829	96
心理相談やカウンセリングサービス	298 4.1%	639 8.7%	4696 64.0%	1370 18.7%	329 4.5%	7332 100.0%	3263	100

〔21〕あなたは、本学の次のことさらに、どの程度満足していますか。（※「わからない」を有効回答扱い）

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
コンピュータの施設や設備	301 2.8%	950 9.0%	3759 35.4%	3893 36.7%	1125 10.6%	582 5.5%	10610 100.0%	85
コンピュータの訓練や援助	312 2.9%	1055 9.9%	4916 46.3%	2944 27.7%	633 6.0%	758 7.1%	10618 100.0%	77
インターネットの使いやすさ	372 3.5%	1241 11.7%	4184 39.4%	3335 31.4%	806 7.6%	672 6.3%	10610 100.0%	85
図書館の設備	247 2.3%	832 7.8%	3295 31.1%	4114 38.8%	1600 15.1%	518 4.9%	10606 100.0%	89
実験室・実習室の設備や器具	254 2.4%	712 6.7%	4060 38.3%	2882 27.2%	842 8.0%	1841 17.4%	10591 100.0%	104
就職の斡旋サービス	258 2.4%	752 7.1%	4086 38.6%	2977 28.1%	988 9.3%	1530 14.4%	10591 100.0%	104
キャリアカウンセリング	263 2.5%	665 6.3%	4699 44.3%	2155 20.3%	670 6.3%	2151 20.3%	10603 100.0%	92
奨学金など学費援助の制度	235 2.2%	581 5.5%	4251 40.1%	2551 24.1%	728 6.9%	2257 21.3%	10603 100.0%	92
ボランティア活動の機会	272 2.6%	710 6.7%	4623 43.6%	2389 22.5%	641 6.0%	1962 18.5%	10597 100.0%	98
健康保健サービス	248 2.3%	579 5.5%	4983 47.0%	1603 15.1%	302 2.8%	2885 27.2%	10600 100.0%	95
下宿やアパートの斡旋や紹介	335 3.2%	653 6.2%	4325 40.8%	1301 12.3%	289 2.7%	3690 34.8%	10593 100.0%	102
リーダーシップ発揮の機会	252 2.4%	639 6.0%	5466 51.6%	1611 15.2%	291 2.7%	2338 22.1%	10597 100.0%	98
レクリエーション施設	397 3.7%	959 9.0%	4784 45.1%	1377 13.0%	253 2.4%	2829 26.7%	10599 100.0%	96
心理相談やカウンセリングサービス	298 2.8%	639 6.0%	4696 44.3%	1370 12.9%	329 3.1%	3263 30.8%	10595 100.0%	100

〔22〕 本学の短大教員は、あなたに次のような活動をどのくらい提供しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどき あった	ひんばんに あった	合計	無回答
就職や編入学など進路選択の励まし	1463 13.8%	3160 29.9%	4508 42.6%	1449 13.7%	10580 100.0%	115
研究プロジェクトに関わる機会	3398 32.1%	4529 42.8%	2308 21.8%	339 3.2%	10574 100.0%	121
教育課程や授業に対する助言や指導	1055 10.0%	3101 29.3%	5046 47.6%	1394 13.2%	10596 100.0%	99
心の支えや励まし	1594 15.1%	3497 33.0%	4349 41.1%	1142 10.8%	10582 100.0%	113
推薦状の執筆	4096 39.0%	3807 36.2%	2213 21.0%	399 3.8%	10515 100.0%	180
学習能力を向上するための手助け	1474 13.9%	3734 35.3%	4480 42.3%	894 8.4%	10582 100.0%	113
成績評価以外の学習アドバイス	1699 16.1%	3960 37.4%	4091 38.7%	834 7.9%	10584 100.0%	111
知的にやりがいのある課題や励まし	1841 17.4%	4401 41.6%	3709 35.1%	629 5.9%	10580 100.0%	115
授業以外でも学習内容を話し合う機会	2097 19.8%	4229 39.9%	3531 33.4%	730 6.9%	10587 100.0%	108
専門的な目標を達成する手助け	1565 14.8%	3600 34.0%	4343 41.0%	1072 10.1%	10580 100.0%	115
教室での学習を「実生活」に応用する機会	1939 18.3%	4259 40.3%	3653 34.6%	722 6.8%	10573 100.0%	122

〔23〕 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく 減った	減った	変化なし	増えた	大きく 増えた	合計	無回答
一般的な教養	125 1.2%	461 4.4%	3689 35.1%	5597 53.3%	638 6.1%	10510 100.0%	185
分析や問題解決能力	96 0.9%	397 3.8%	4984 47.4%	4663 44.4%	370 3.5%	10510 100.0%	185
専門分野や学科の知識	87 0.8%	205 2.0%	2135 20.3%	5285 50.3%	2787 26.5%	10499 100.0%	196
批判的に考える能力	132 1.3%	565 5.4%	5767 54.9%	3595 34.2%	444 4.2%	10503 100.0%	192
異文化の人々に関する知識	225 2.1%	551 5.2%	6413 61.1%	2896 27.6%	416 4.0%	10501 100.0%	194
リーダーシップの能力	164 1.6%	568 5.4%	6361 60.6%	3013 28.7%	398 3.8%	10504 100.0%	191
人間関係を構築する能力	145 1.4%	461 4.4%	4020 38.3%	5000 47.6%	877 8.3%	10503 100.0%	192
他の人と協力して物事を遂行する能力	124 1.2%	340 3.2%	3732 35.5%	5053 48.1%	1258 12.0%	10507 100.0%	188
異文化の人々と協力する能力	301 2.9%	612 5.8%	7427 70.8%	1884 18.0%	267 2.5%	10491 100.0%	204
地域社会が直面する問題の理解	171 1.6%	453 4.3%	6300 60.0%	3178 30.3%	395 3.8%	10497 100.0%	198
国民が直面する問題の理解	171 1.6%	460 4.4%	6460 61.5%	3093 29.5%	313 3.0%	10497 100.0%	198
グローバルな問題の理解	192 1.8%	516 4.9%	7184 68.5%	2377 22.7%	222 2.1%	10491 100.0%	204
文章表現の能力	148 1.4%	495 4.7%	5431 51.7%	4029 38.4%	392 3.7%	10495 100.0%	200
外国語の運用能力	334 3.2%	1127 10.7%	6894 65.7%	1922 18.3%	210 2.0%	10487 100.0%	208
コミュニケーションの能力	141 1.3%	365 3.5%	4345 41.4%	4782 45.5%	871 8.3%	10504 100.0%	191
プレゼンテーションの能力	142 1.4%	449 4.3%	6346 60.5%	3194 30.4%	364 3.5%	10495 100.0%	200
数理的な能力	408 3.9%	1392 13.3%	7069 67.4%	1487 14.2%	136 1.3%	10492 100.0%	203
コンピュータの操作能力	128 1.2%	483 4.6%	5033 47.9%	4229 40.3%	624 5.9%	10497 100.0%	198
時間を効果的に利用する能力	127 1.2%	514 4.9%	4754 45.3%	4372 41.6%	733 7.0%	10500 100.0%	195
卒業するための準備の程度	137 1.3%	321 3.1%	4188 39.9%	4789 45.6%	1061 10.1%	10496 100.0%	199

[24] 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。

	まったく うまくい なかつた	あまり うまくい なかつた	い くら か う ま く い っ た	と と も う ま く い っ た	合計	無回答
学生向けサービスを上手に利用する	889 8.5%	3916 37.5%	5126 49.0%	525 5.0%	10456 100.0%	239
大学教員の学問的な期待を理解する	749 7.1%	4543 43.4%	4820 46.0%	367 3.5%	10479 100.0%	216
効果的に学習する技能を修得する	582 5.6%	3788 36.1%	5565 53.1%	550 5.2%	10485 100.0%	210
大学が求める水準に応じて学習する	620 5.9%	3981 38.0%	5353 51.1%	530 5.1%	10484 100.0%	211
時間を効果的に使う	506 4.8%	3036 28.9%	5827 55.5%	1121 10.7%	10490 100.0%	205
大学教員と顔見知りになる	477 4.5%	2409 23.0%	5996 57.2%	1608 15.3%	10490 100.0%	205
他の学生との友情を深める	465 4.4%	1626 15.5%	5316 50.6%	3091 29.4%	10498 100.0%	197

[25] あなたの本学での成績はどれくらいですか。

	度数	パーセント
上位の方	645	6.2%
中の上くらい	1590	15.2%
中くらい	3507	33.5%
中の下くらい	1910	18.2%
下位の方	1517	14.5%
その他	1310	12.5%
合計	10479	100.0%
無回答	216	

[26] あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
専門分野で第一人者になる	1634 15.6%	3840 36.6%	3745 35.7%	1262 12.0%	10481 100.0%	214
専門分野で仲間に認められる	621 5.9%	1943 18.5%	5204 49.6%	2719 25.9%	10487 100.0%	208
政治的な活動にたずさわる	3285 31.3%	4315 41.2%	2462 23.5%	419 4.0%	10481 100.0%	214
社会の価値観に影響を与える	2177 20.8%	4080 39.0%	3449 32.9%	767 7.3%	10473 100.0%	222
家族を養う	417 4.0%	1586 15.1%	4591 43.8%	3884 37.1%	10478 100.0%	217
家庭を築く	470 4.5%	1346 12.8%	3852 36.7%	4819 46.0%	10487 100.0%	208
企業や団体などで管理職になる	2247 21.4%	4622 44.1%	2954 28.2%	658 6.3%	10481 100.0%	214
会社などで出世する	1561 14.9%	3500 33.4%	4033 38.5%	1378 13.2%	10472 100.0%	223
お金持ちになる	845 8.1%	3000 28.6%	4529 43.2%	2098 20.0%	10472 100.0%	223
困っている人の役に立つ	388 3.7%	1257 12.0%	4659 44.5%	4168 39.8%	10472 100.0%	223
文芸作品を執筆する	4533 43.3%	3623 34.6%	1844 17.6%	459 4.4%	10459 100.0%	236
芸術作品を製作する	4417 42.2%	3448 32.9%	2083 19.9%	528 5.0%	10476 100.0%	219
舞台芸術で成功する	4488 42.9%	3451 33.0%	1939 18.5%	587 5.6%	10465 100.0%	230
ビジネスで成功する	2562 24.5%	3505 33.5%	3335 31.9%	1062 10.1%	10464 100.0%	231
環境を守るための活動に参加	1472 14.1%	3721 35.6%	4256 40.7%	1013 9.7%	10462 100.0%	233
人生の意味を深く考える	895 8.5%	2760 26.4%	4708 45.0%	2109 20.1%	10472 100.0%	223
地域社会の活動に参加する	1211 11.6%	3332 31.8%	4588 43.9%	1331 12.7%	10462 100.0%	233
人権意識の向上に役立つ	1512 14.4%	3979 38.0%	4005 38.3%	971 9.3%	10467 100.0%	228
政治の動向に関心を持つ	2144 20.5%	4084 39.0%	3524 33.7%	712 6.8%	10464 100.0%	231
地域社会のリーダーになる	2923 27.9%	4747 45.3%	2346 22.4%	457 4.4%	10473 100.0%	222
精神性や信仰心を生活に反映させる	2516 24.1%	4346 41.6%	2977 28.5%	610 5.8%	10449 100.0%	246
多様な社会や文化を理解する	1189 11.4%	3006 28.8%	4654 44.5%	1598 15.3%	10447 100.0%	248
友人関係を大切にする	196 1.9%	698 6.7%	2823 27.0%	6737 64.4%	10454 100.0%	241
自分の生きたい人生を送る	139 1.3%	599 5.7%	2630 25.2%	7089 67.8%	10457 100.0%	238

[27] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

女性の生き方の回答割合（全体）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	383	3.7%
結婚や出産をしても仕事を続ける	3691	35.8%
結婚や出産時に仕事をやめる	1353	13.1%
子どもの手が離れたら再び働く	4701	45.6%
就職はしないで結婚する	175	1.7%
合計	10303	100.0%
無回答	392	

女性の生き方の回答割合（女子学生のみ）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	359	3.8%
結婚や出産をしても仕事を続ける	3401	35.8%
結婚や出産時に仕事をやめる	1195	12.6%
子どもの手が離れたら再び働く	4385	46.2%
就職はしないで結婚する	149	1.6%
合計	9489	100.0%
無回答	242	



[28] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

現在の就職活動の状況（全体）

	度数	パーセント
積極的には職を探していない	2494	24.8%
就職活動中であるが、内定が無い	1908	19.0%
内定を受けたが、断った	164	1.6%
ある内定を受けるかどうか考慮中	621	6.2%
内定が決定した	2201	21.9%
今年は就職を考えていない	2671	26.6%
合計	10059	100.0%
無回答	636	

現在の就職活動の状況（学年別傾向）

	1年生		2年生以上		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1963	37.3%	526	11.0%	2489	24.8%
就職活動中であるが、内定が無い	585	11.1%	1317	27.6%	1902	19.0%
内定を受けたが、断った	65	1.2%	98	2.1%	163	1.6%
ある内定を受けるかどうか考慮中	376	7.1%	244	5.1%	620	6.2%
内定が決定した	183	3.5%	2008	42.1%	2191	21.8%
今年は就職を考えていない	2088	39.7%	577	12.1%	2665	26.6%
合計	5260	100.0%	4770	100.0%	10030	100.0%

[29] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。

	度数	パーセント
建築士や都市設計士	13	0.1%
エンジニア	11	0.1%
プログラマー	24	0.2%
歯科医	25	0.2%
医師	19	0.2%
獣医	12	0.1%
薬剤師	7	0.1%
看護師	424	4.2%
医療技師や衛生士	321	3.2%
理学療法士や作業療法士、言語聴覚士	20	0.2%
栄養士や管理栄養士	485	4.8%
介護福祉士や社会福祉士	388	3.8%
ホームヘルパー	14	0.1%
保育士	3029	30.0%
弁護士や裁判官	4	0.0%
会計士や税理士	13	0.1%
幼稚園の教員	1212	12.0%
小学校の教員	164	1.6%
中学校や高校の教員	78	0.8%
大学や短大の教員	10	0.1%
その他学校の教員	24	0.2%
学校外の各種の教育職	30	0.3%
学校や大学の職員	10	0.1%
学校長や学校経営者	5	0.0%
学校のカウンセラー	22	0.2%
臨床心理士	22	0.2%
聖職者(僧侶など)	13	0.1%
芸術家	83	0.8%
インテリアデザイナー	53	0.5%
作家やジャーナリスト	30	0.3%
演奏家や作曲家	31	0.3%
俳優や演出家	105	1.0%
国や地方自治体の議員	5	0.0%
国家公務員	29	0.3%
地方公務員	137	1.4%
自衛隊員	10	0.1%
警察官	18	0.2%
消防士	7	0.1%
パイロットや客室乗務員	18	0.2%
海外勤務者	53	0.5%
ベンチャービジネス(起業家)	13	0.1%
科学研究者	4	0.0%
旅行や観光業の仕事	119	1.2%
新聞や放送関係の仕事	20	0.2%
インターネット関係の仕事	32	0.3%
企業や団体の事務職	352	3.5%
企業や団体の経営者	33	0.3%
小売店の自営業者	38	0.4%
販売員や卸売業者	263	2.6%
農林水産業の従事者	5	0.0%
製造業の技能工	57	0.6%
専業主婦	204	2.0%
フリーター	46	0.5%
その他	875	8.7%
まだ決めていない	1041	10.3%
合計	10080	100.0%
無回答	615	

[29] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。(上位 10 位まで)

	度数	パーセント
保育士	3029	30.0%
幼稚園の教員	1212	12.0%
栄養士や管理栄養士	485	4.8%
看護師	424	4.2%
介護福祉士や社会福祉士	388	3.8%
企業や団体の事務職	352	3.5%
医療技師や衛生士	321	3.2%
販売員や卸売業者	263	2.6%
専業主婦	204	2.0%
小学校の教員	164	1.6%
その他(選択肢内の職業)	1322	13.1%
その他(選択肢以外の職業)	875	8.7%
まだ決めていない	1041	10.3%
合計	10080	100.0%
無回答	615	

[30] 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらはどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
社会を変えるための仕事	1333 12.8%	3850 36.9%	4151 39.8%	1099 10.5%	10433 100.0%	262
高収入の可能性	599 5.7%	2636 25.2%	5324 51.0%	1886 18.1%	10445 100.0%	250
世間的な知名度や地位	1217 11.7%	4337 41.6%	3943 37.8%	940 9.0%	10437 100.0%	258
生活の安定や保証	235 2.3%	896 8.6%	4674 44.8%	4639 44.4%	10444 100.0%	251
創造性や独創性	891 8.5%	3314 31.7%	4613 44.2%	1621 15.5%	10439 100.0%	256
自己を表現する仕事	743 7.1%	2750 26.3%	4887 46.8%	2063 19.8%	10443 100.0%	252
自由な時間	301 2.9%	1491 14.3%	4939 47.3%	3716 35.6%	10447 100.0%	248
リーダーシップを発揮できる可能性	1402 13.4%	4199 40.2%	3792 36.3%	1047 10.0%	10440 100.0%	255
さまざまな領域の仕事をする可能性	1184 11.4%	3696 35.5%	4277 41.0%	1268 12.2%	10425 100.0%	270

[31] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(※「わからない」を欠損値扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	(欠損値)	
							わからない	無回答
共通教育あるいは教養教育の授業	208 2.1%	594 6.1%	4438 45.3%	3784 38.7%	764 7.8%	9788 100.0%	641	266
専門科目の授業	175 1.7%	471 4.7%	3344 33.2%	4707 46.8%	1366 13.6%	10063 100.0%	368	264
1年次生を対象とした教育プログラム内	240 2.6%	650 7.1%	4742 51.5%	2951 32.0%	627 6.8%	9210 100.0%	1185	300
授業の全体的な質	242 2.4%	990 9.9%	4528 45.1%	3657 36.4%	616 6.1%	10033 100.0%	386	276
日常生活と授業の内容との関連	183 1.8%	616 6.2%	4820 48.7%	3653 36.9%	626 6.3%	9898 100.0%	521	276
キャリア計画に対する授業内容の有効	168 1.7%	596 6.1%	4369 44.5%	3840 39.1%	847 8.6%	9820 100.0%	595	280
1つの授業を履修する学生数	175 1.8%	701 7.1%	4625 47.1%	3614 36.8%	704 7.2%	9819 100.0%	593	283
教員と話をする機会	216 2.2%	759 7.7%	4981 50.4%	3221 32.6%	698 7.1%	9875 100.0%	538	282
教職員による学生支援体制	248 2.6%	795 8.2%	4985 51.6%	3041 31.5%	588 6.1%	9657 100.0%	758	280
個人別の学習指導や援助	279 2.9%	940 9.8%	5197 53.9%	2694 28.0%	526 5.5%	9636 100.0%	783	276
履修や成績に対するアドバイス	277 2.8%	939 9.6%	5046 51.6%	2969 30.3%	553 5.7%	9784 100.0%	632	279
他の学生と話をする機会	204 2.1%	551 5.5%	3923 39.4%	3893 39.1%	1374 13.8%	9945 100.0%	473	277
学生同士の一体感	274 2.8%	689 6.9%	4204 42.3%	3581 36.0%	1192 12.0%	9940 100.0%	476	279
学生交流の機会	268 2.7%	720 7.3%	4506 45.7%	3436 34.8%	935 9.5%	9865 100.0%	560	270
多様な考え方を認め合う雰囲気	299 3.0%	706 7.2%	4786 48.8%	3238 33.0%	783 8.0%	9812 100.0%	603	280
短大全体の学生数	215 2.2%	562 5.8%	4681 48.3%	3431 35.4%	803 8.3%	9692 100.0%	727	276
短大での経験全般について	230 2.3%	535 5.4%	4301 43.6%	3707 37.6%	1088 11.0%	9861 100.0%	559	275

[31] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(※「わからない」を有効回答扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
共通教育あるいは教養教育の授業	208 2.0%	594 5.7%	4438 42.6%	3784 36.3%	764 7.3%	641 6.1%	10429 100.0%	266
専門科目の授業	175 1.7%	471 4.5%	3344 32.1%	4707 45.1%	1366 13.1%	368 3.5%	10431 100.0%	264
1年次生を対象とした教育プログラム内	240 2.3%	650 6.3%	4742 45.6%	2951 28.4%	627 6.0%	1185 11.4%	10395 100.0%	300
授業の全体的な質	242 2.3%	990 9.5%	4528 43.5%	3657 35.1%	616 5.9%	386 3.7%	10419 100.0%	276
日常生活と授業の内容との関連	183 1.8%	616 5.9%	4820 46.3%	3653 35.1%	626 6.0%	521 5.0%	10419 100.0%	276
キャリア計画に対する授業内容の有効	168 1.6%	596 5.7%	4369 41.9%	3840 36.9%	847 8.1%	595 5.7%	10415 100.0%	280
1つの授業を履修する学生数	175 1.7%	701 6.7%	4625 44.4%	3614 34.7%	704 6.8%	593 5.7%	10412 100.0%	283
教員と話をする機会	216 2.1%	759 7.3%	4981 47.8%	3221 30.9%	698 6.7%	538 5.2%	10413 100.0%	282
教職員による学生支援体制	248 2.4%	795 7.6%	4985 47.9%	3041 29.2%	588 5.6%	758 7.3%	10415 100.0%	280
個人別の学習指導や援助	279 2.7%	940 9.0%	5197 49.9%	2694 25.9%	526 5.0%	783 7.5%	10419 100.0%	276
履修や成績に対するアドバイス	277 2.7%	939 9.0%	5046 48.4%	2969 28.5%	553 5.3%	632 6.1%	10416 100.0%	279
他の学生と話をする機会	204 2.0%	551 5.3%	3923 37.7%	3893 37.4%	1374 13.2%	473 4.5%	10418 100.0%	277
学生同士の一体感	274 2.6%	689 6.6%	4204 40.4%	3581 34.4%	1192 11.4%	476 4.6%	10416 100.0%	279
学生交流の機会	268 2.6%	720 6.9%	4506 43.2%	3436 33.0%	935 9.0%	560 5.4%	10425 100.0%	270
多様な考え方を認め合う雰囲気	299 2.9%	706 6.8%	4786 46.0%	3238 31.1%	783 7.5%	603 5.8%	10415 100.0%	280
短大全体の学生数	215 2.1%	562 5.4%	4681 44.9%	3431 32.9%	803 7.7%	727 7.0%	10419 100.0%	276
短大での経験全般について	230 2.2%	535 5.1%	4301 41.3%	3707 35.6%	1088 10.4%	559 5.4%	10420 100.0%	275

[32] あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。

	度数	パーセント
第1志望	7921	76.3%
第2志望以下	2467	23.7%
合計	10388	100.0%

[33] あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。

	度数	パーセント
一般入試	1186	11.4%
一般と大学入試センター試験の併用型	183	1.8%
大学入試センター試験利用型	236	2.3%
内部進学	502	4.8%
指定校推薦	4231	40.8%
スポーツや課外活動の推薦	118	1.1%
公募推薦	1294	12.5%
AO選考	2165	20.9%
留学生入試	31	0.3%
社会人入試	223	2.2%
その他の試験	198	1.9%
合計	10367	100.0%
無回答	328	

#### 入試方式の3分類

	度数	パーセント
一般入試	1605	15.5%
各種推薦入試	8310	80.2%
その他	452	4.4%
合計	10367	100.0%

※[一般入試]…「一般入試」+「一般入試とセンター試験併用型」+「センター入試利用」

[各種推薦入試]…「内部進学」+「指定校推薦」+「スポーツ等推薦」+「公募推薦」+「AO入試」

[その他]…「留学生入試」+「社会人入試」+「その他の入試」

[34] あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。

	度数	パーセント
高校入学前	467	4.6%
高校1年生	483	4.8%
高校2年生	1069	10.6%
高校3年生(4月～6月)	1870	18.5%
高校3年生(7月～8月)	2445	24.2%
高校3年生(9月～11月)	2297	22.7%
高校3年生(12月から1月中旬)	712	7.0%
大学入試センター試験終了後	453	4.5%
浪人生時代	310	3.1%
合計	10106	100.0%
無回答	589	

[35-1] あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人はいらっしゃいますか。

	度数	パーセント
はい	4640	45.2%
いいえ	5110	49.8%
その他	506	4.9%
合計	10256	100.0%
無回答	439	

[35-2] ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか(有効回答 4640名)。

家族内で大学・短大を卒業した方(父親)	度数	パーセント
あてはまる	2236	48.2%
あてはまらない	2404	51.8%
合計	4640	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(母親)	度数	パーセント
あてはまる	2375	51.2%
あてはまらない	2265	48.8%
合計	4640	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(兄弟)	度数	パーセント
あてはまる	1012	21.8%
あてはまらない	3628	78.2%
合計	4640	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(姉妹)	度数	パーセント
あてはまる	1134	24.4%
あてはまらない	3506	75.6%
合計	4640	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(その他)	度数	パーセント
あてはまる	206	4.4%
あてはまらない	4434	95.6%
合計	4640	100.0%



[36] あなたの学生生活は充実していますか。

	度数	パーセント
充実している	3397	33.0%
ある程度充実している	3730	36.3%
普通である	1762	17.1%
あまり充実していない	877	8.5%
充実していない	519	5.0%
合計	10285	100.0%
無回答	410	

[37] もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度、本学に進学しますか。

	度数	パーセント
かならず進学する	888	8.6%
おそらく進学する	2788	27.1%
おそらく進学しない	2293	22.3%
絶対に進学しない	1403	13.7%
わからない	2897	28.2%
合計	10269	100.0%
無回答	426	

## 第3部 参加校の意見

本調査では、データ入力作業等の整理が終了した平成26年2月に調査参加短期大学ごとの個別集計結果を提供、同年4月に全体集計結果を中間報告としてまとめ、調査参加短期大学37校に送付した。中間報告にあわせ、以下のアンケートを同封して調査への意見の提出を依頼した。

### 「短大生調査2013年(JJCSS2013)」についてのアンケート

1. 調査項目について
  - 1-1. 短大生調査2013年(JJCSS2013)の調査項目は貴学の学生への質問として、適切でしたか。該当するものを選んで下さい。
    - 適切であった
    - 大旨適切であった
    - あまり適切でなかった
    - まったく適切でなかった
  - 1-2. 適切でなかった、あるいは改善を要すると感じた項目について、具体的にご指摘下さい。
2. 実施時期について
  - 2-1. 2013年度調査の実施時期(平成25年11月～12月)は、適切でしたか。該当するものを選んで下さい。
    - 適切であった
    - 大旨適切であった
    - あまり適切ではなかった
    - まったく適切でなかった
  - 2-2. 適切でなかったとお答えの場合、適切な実施時期とその理由をお書き下さい。
3. 実施方法について、ご意見やご感想をお書き下さい。
4. 2月にお届けした2013年調査 個別集計結果データについて
  - 4-1. 貴短期大学の個別集計結果データをどの様に活用されましたか。教えて下さい。
  - 4-2. その他、データについて気が付かれたことがあれば、何でもお書き下さい。
5. この中間報告書をどの様に活用されるかについて、お教え下さい。
6. 本短大生調査全般について
  - 6-1. 本短大生調査への参加は、
    - 初めてである
    - 2回目である
    - 3回目である

4 回目である

5 回目である

6-1-1. 既に「短大生調査をこのように活用した（活用している）」あるいは「本短大生調査がこのような役に立った」という具体例があれば、お教え下さい。

6-2. 本協会のウェブサイトには短大生調査を基にした学術研究の成果が掲載されていますが、ご存知ですか。

いいえ、全く知らなかった

知ってはいるが、参照したことがない

参照したことがある

よく参照している

6-2-1. 本短大生調査に対し、今後どのようなことを期待されますか。

7. その他ご意見、ご感想等をお書き下さい。

その結果、37 校中 28 校からの回答を得た。下記は、そのアンケートの集計結果である。

### [アンケート集計結果]

#### 1-1.調査項目が貴学の学生への質問として

- ① 適切であった ..... 10 校
- ② 大旨適切であった ..... 18 校
- ③ あまり適切でなかった ..... 0 校
- ④ 不適切であった ..... 0 校
- ⑤ 無回答 ..... 0 校

#### 1-2.適切でなかった、あるいは改善を要すると感じた項目について、具体的にご指摘下さい

○ 調査項目に関しては、大旨適切であると考えます。しかし質問項目が大変多く、学生が最後までじっくりと考えてアンケートに答えるだけの集中力を持続できるか課題ではないか。

○ 「学際的な授業」等、若干解説を必要とする項目があった。

○ 全体として項目数が多く、いろんな意味で負担が大きいと思いました。

[15]1. 「学際的」を理解できない学生が多数いた。25. 「オフィスアワーなどの時間に教員と面談した」は必要ですか。教員と面談するのに、オフィスアワーを意識していません。

[27]男子学生の場合も回答しやすい選択肢がよい。

- 家族の大・短大卒。(設問 [35・2] ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか。)
- これだけの項目数に答えるだけの時間をしっかりとることは難しいです。項目数を減らしていただければと思います。

### 2-1.実施時期について、実施期間（平成 25 年 11 月～12 月）は

- ① 適切であった ..... 13 校
- ② 大旨適切であった ..... 11 校
- ③ あまり適切でなかった ..... 4 校
- ④ まったく適切でなかった ..... 0 校
- ⑤ 無回答 ..... 0 校

### 2-2.適切でなかったとお答えの場合、その理由をお書き下さい。

- 後期の授業終了時点でのアンケート調査の実施が望ましいと考える（講義、セミナー等が終了していないため）。
- 実施時期が年度末でないため、学習成果などの反映がされていないと感じます。年明けの実施が望ましい。
- 11 月は大学祭、教育実習（保育実習）等の行事があり、タイトなスケジュールでの実施であった。
- 幼児教育学科は、実施時期と実習の時期が重なっていたため、調整が必要であったが、期間中に実施することができた。
- 昨年度と同様ですが、学生理解に使用するという点では、もう少し早くても良いかと思えます。
- 1 ヶ月以上回答期間はあったが、ちょうど 11 月は保育実習が重なり学生がいなくなる時期であり、実施期間が限られた。回答期間がもう少し余裕があれば、（たとえば 2 ヶ月になれば）と思いました。
- 本学は 12 月の第 2 土曜日・日曜日に大学祭・学習発表会がありますため、12 月初めの実施は時間的にかなり難しいものがあります。

### 3.実施方法について、ご意見等をお書き下さい。

- アンケートの記入に結構時間がかかるようで、持ち帰らせると回収が難しくなることもあり、時間の確保に苦慮したようである。
- 特段支障なくスムーズに講義時間の一部を割くことで実施できた。
- 2013 年 11 月、1 年生全員が揃う共通授業の際に調査を一斉に実施したが、不都合はなかった。
- 質問項目によっては、学生単独で回答させるには理解しにくいものもあると同時に、教

員自身もよく理解できていない項目も入っている。(本学のどのカリキュラムやセミナーに該当するのか)

- 調査実施に時間を要する事が分かっていたため、複数日に分割して実施している。
- 本学では、少人数による教養ゼミナール (SL と呼んでいる) があり、その中で SL 担当の先生にお願いして、1 週間程度の期間内に回収しております。時間割編成の都合で、一斉に実施できる年度とそれができない年度となることもあります。
- 講義の最初の時間での実施を先生方をお願いしたが、配布から回収までの時間が、想定 (20 分) 以上かかってしまった。
- 教員の講義の時間を使用して、説明と配布を行った。そして、後日、日程を決めて回収した。
- ひとつひとつの問いに丁寧に回答する学生が多かったため、比較的時間がかかった (40 分位)。
- ホームルームの時間を活用して実施した。
- 一斉実施ではなく、教員の講義時間を活用し、複数日に実施した。欠席の学生については、教員に対応をお任せし、9 割に近い学生に実施することができた。
- 20 分程度の実施時間とあったと思いますが、1 時間程かかる学生が多かった。ゼミの時間に実施をお願いしましたが、ご迷惑をおかけしてしまいました。
- ゼミナール等、授業時間内で実施したので、学科・コースで実施日は異なった。想定以上に回答に時間を要した。
- クラスによって異なりましたが、予定よりも回答に時間がかかったという意見がありました。
- 回答項目数が多いため、時間がかかってしまい、回収日・時間を延ばしたことで回収率が低下してしまいました。本学の学生はアンケートには協力的なほうですが回収数が少なかったのが残念でした。
- 本学では期間を設定し、それぞれの学科で最も都合が良いと判断する時間にクラス単位で実施してもらっています。よってアンケート項目について疑義が生じないことが望ましいと考えています。
- 本学では学年ごとに一同に集まる時間を利用して実施しましたので、回収に関しては問題なかったと思います。ただし、項目数が多かったので、予想以上に時間がかかってしまいました。
- 時間割の都合上、複数日に分割して実施した。
- 教員の講義 (必修科目で全員そろっている) 時に実施した。回答項目をじっくり読む学生は想定どおりであった。
- ホームルームに、クラス単位にわけて実施したため、実施期間は 1 週間程度となった。学生によって早く回答できる学生とそうでない学生がいるため、その時間に終わらず、次のホームルームを使用した学生もいた。

- 全学生の一斉実施は時間割の都合上難しいので、各学科教員に依頼し、クラス毎に実施した。また、講義時間を活用して行うため出来る限り講義に支障がないように、実施期間を2週間に設定し、各講義の都合に合わせて実施できるようにした。
- クラスやゼミごとに行ったので、全く問題がなかった。学生にとっても、教員にとってもこの問題を考える「良い機会」となった。
- 一斉実施ではなく、各学科でスケジュールを調整している。アンケート記入には、かなり時間がかかるので、クラスアワー（ホームルーム）の時間に実施した学科もある。
- 学生にとってはアンケート量が多いので、持ち帰りによって記入させていただきました。

#### 4-1. 2月にお届けしたデータについてデータをどの様に活用されましたか。

- 外部評価の準備の参考。
- データ上に表れた本学の顕著な特徴を全教職員が理解し、今後の大学運営にどのように生かすか議論する機会を設ける（FD研修会等の形で）。
- 調査関係者を講師にむかえてFD研修会を開催し、短大生調査を活用した教育改善を目指した。  
このアンケートにより、本学には高校の成績がやや高い生徒が入学し、大学編入・進学意識が高いことが判明したが、施設や教員とのコミュニケーションの取り方などの満足度が低い点が明らかになり、現在、その改善を検討している。
- 本学実施の「学生満足度調査」と合わせて分析できる。
- 本学の学生委員会等で情報共有をしている。
- 本学の自己点検・評価委員会、FD・SD実施委員会および教務委員会では、経年調査しているデータの整理を行い、本学の学生がどの程度現状に満足しているのか、学習時間の増加があるのか等に注目している。  
本学で独自に実施している「授業に関するアンケート調査」とデータを比較して活用している（特に、授業の満足度や予習・復習の時間など）。これらの検討データは、FD・SDで報告・討論し、全教職員の間で共通の認識を持つために活用している。それにより、学生の学修時間の延長につながる方策を見つけようとして努力を継続している。
- 本学独自の学生アンケートと似ている項目については比較をし、異なる項目についてはステークホルダーとして、学生の評価として点検評価に活用した。
- 今後活用していく予定。
- 学生の生活を把握して、指導等に役立てる。入試や広報戦略の資料とする。
- 現時点ではまだ活用していないが、関係委員会や研修会で本学の学生の現状把握のために役立てるつもりである。
- 本学が独自に作成したアンケート結果と併せて、全教職員で集計結果データを共有して、今後の学生支援の改善のために活用した。
- 自己点検・評価の課題発見や目標設定につなげる。平成27年度受審予定の第三者評価

の際の根拠資料。教員間の問題意識の共有。以上について活用する予定。

- 本学保育科において関心のある項目(学習時間、喫煙経験、充実度など)についての分析結果を会議にて報告しました。他の項目についても今後、分析報告し、学生指導に生かしていきたい。
- 学生満足度調査の実施内容検討の基礎資料とする。
- 教職員研修会等で報告する予定です。
- 教員がいつも見られるように共通の部屋に置き、活用しました。
- 経年変化を見ています。
- 本学の共有資料として、全教職員が閲覧できるようにしています。そして、本学の学生理解や全国の学生との比較、自己点検評価などに活用しています。
- 教職員へ周知することにより、今後の講義や学生指導の参考にすることができた。
- 2014年度の学生指導に役立てるため、現在、担当者が読みこんでいる最中である。
- 第三者評価等も踏まえ、今後全学で共通認識していく。
- 学生が、この大学にまた入りたいと思うか、という項目に対して、それほどそう思っていないことがわかったことは厳粛に受け止めている。
- 今後、担当の学生支援委員会により、活用方法を検討予定。
- 教務、学生支援等の改善に活用していきたい。
- 本学では、12月～1月に2年生を対象にした「学生生活調査」を実施している。  
この1年生対象の「短大生調査」を実施することで、2年間の学生の動向が見えて大変有効である。
- 結果データを用いてFD研修会(H26.3実施)において、グループディスカッションに使用した。
- 自己点検・評価活動に有意義に活用いたしました。

4-2.その他、データについて気が付かれたことがあれば、何でもお書きください。

- Q20の「スピリチュアリティ(精神性)」や、Q23の「批判的に考える能力」「地域社会が直面する問題の理解」「国民が直面する問題」「異文化の人々に関する知識」「グローバルな問題の理解」「外国語の運用能力」「数理的な能力」など、学生が質問の意図を理解して答えるには難解な項目があるように思える。
- 家族の学歴調査については、学生の父兄からすると疑問の多い調査項目では。通学時間と勉強時間、成績との関係。
- 専門分野を答える項目はあるが、学科別を答える項目を独自に加えるなどができるかと分析に役立つ。

5.調査全体集計結果・中間報告書について、この中間報告をどのように活用されるかについて、お書き下さい。

- 自己点検・外部評価の参考。
- 比較データとして活用する。
- 本学で独自に行っている「授業評価」と、短大基準協会の「短大生調査」との比較検討をし、本学の問題点や改善点を析出した上で、今後の授業や学生の学習環境など多角的な改善を図りたいと考えている。
- 今年度、本学で受審の認証評価における学生支援に関する振り返りの資料として活用できる。
- 本学の学生委員会で実施している調査（アンケート）と合わせて、学生の状況を把握している。
- 全国データと本学分のデータの比較、さらに本学独自のアンケート調査とも比較することで、学年による学修時間の違いが明らかとなり、大変貴重な基礎データとなっています。
- 本学の点検評価に活用し、PDCA サイクルを回して教育活動を改善していく。
- 他の短大とデータを比較して、大学運営の資料等として活用する。
- 2月のデータと比較しながら本学の学生の理解のために役立てるつもりである。
- 全教職員で「全体集計結果」「中間報告書」を基に、今後の学生支援の改善に活用したい。
- 個別集計結果との比較により、短期大学運営上の問題、強み、弱みを再確認し、自己点検・評価に反映させ、改善に努める。
- 分析結果を考察する上での参考にさせていただきます。また、教員の共同研究室に配架し、必要に応じて閲覧できるようにします。
- 学内会議において報告し、改善点については検討していきたいと考えています。
- 調査項目を抽出して、本学結果と比較し、自己点検・評価に活用し、改善に役立てる。
- 教職員研修会等で報告する予定です。
- 広報活動や教授活動、学生指導時に参考にさせていただきます。
- 他大学との比較により、本学の教育の長所を伸ばし、短所を直していきたいと考えています。
- 本学の共有資料として、全教職員が閲覧できるようにしています。そして、本学の学生理解や全国の学生との比較、自己点検評価などに活用しています。
- 本学と比較し、全体から見た本学学生の姿を浮きぼりにする。
- キャリア教育や、授業改善等に生かしたいと考えている。
- 客観的に本学をとらえ、改善する余地がある点においては改善していきたい。
- 今後、担当の学生支援委員会により、活用方法を検討予定。
- 本学の個別集計データと全体集計結果、中間報告書を比較検討し、今後の本学の改善に有効活用していきたい。
- 自己点検・評価委員会の主導のもとに、各学科が科会を開き、中間報告書を分析してい



る。そして問題点と改善案を検討して、教職員全員が参加する「全学研修会」で発表し、共通認識を持つようにしている。

- 自己点検・評価活動に活用したいと考えています。

6-1.本短大生調査全般について、本短大生調査への参加は

- ① 初めてである ..... 10 校
- ② 2 回目である ..... 5 校
- ③ 3 回目である ..... 3 校
- ④ 4 回目である ..... 4 校
- ⑤ 5 回目である ..... 6 校
- ⑥ 無回答 ..... 0 校

6-1-1.これまでに既に 1 回ないし複数回ご参加いただいている場合、「本校では短大生調査をこのように活用した（活用している）」あるいは「本短大生調査がこのような役に立った」という具体例があればお示し下さい。

- 全国の大学では、学修成果をどのように向上させるかが大きな問題となっているが、本学の教室外での学修時間の経年データを蓄積する上で大変役立っている。本学独自で実施している「授業に関するアンケート調査」とも合わせて考察しながら、一般に学力が低下していると報告されているのに、授業の満足感が高く、成績のインフレ化傾向がみられる原因を探るために活用している。
- まず、本学独自のアンケート項目を考える際参考にさせていただいた。さらに、自己点検・評価をする際、学生の満足度や自己評価等を活用した。但し、必ずしも調査項目が同じではないので、利用することは少なかった。
- 現在、検討中である。
- データを基に学生委員会で検討をし、教授会へ報告した。
- 教員が学生に関わる機会の内容として、授業以外でも学習内容を話し合う機会や研究プロジェクトに関わる機会がないと答えている学生が多かったことを受けて、まずは教員から積極的に声をかけること、ディスカッションの場を授業以外でも大切にしていくなど教員の活動の見直しをすることにつながっている。
- 授業時間外での学習時間が他大学と比較して少ないと判断し、授業アンケートの項目に予習、復習等に費やす時間数を加え、またシラバスにも学習課題の項目を設定することで、学習時間が増加することを期待しています。
- 経年データの活用については現在検討中です。
- 第三者評価に活用した。
- 今後の課題としている。
- 事務担当者が、学生関連の業務のために活用していた。

- 短大生調査を分析・検討をすることにより、的を絞った独自のアンケートを作成して実施した学科があり、学生への指導に役立っている。
- 授業評価アンケートはすべての教科について行っていますが、学生に対する生活支援の部分で基礎データになったと考えています。

6-2.本協会のウェブサイトには短大生調査を基にした学術研究の成果が掲載されていますが、ご存知ですか。

- ① いいえ、全く知らなかった ..... 10校
- ② 知ってはいるが、参照したことがない .... 12校
- ③ 参照したことがある ..... 5校
- ④ よく参照している ..... 0校
- ⑤ 無回答 ..... 1校

6-2-1.本短大生調査に対し、今後どのようなことを期待されますか。

- 本学の都合から言わせていただければ、調査の期間を長くしていただけると実施しやすい。
- 参加する学校（母集団）の増加を望む。
- 質問項目の精選と、質問の意図を理解しやすいアンケートを期待する。
- アルバイトについて。短大以前からアルバイトをしているのか、業種（仕事の内容）、目的、給与、給与の使途など。
- 「授業に関するアンケート調査」からは、教員が努力していることで、授業の満足度は上昇しているが、実際の学力がそれに伴っていない状況が続いており、その原因を極める必要がある。そのためには、このような地道な全国的な調査を継続していく必要性を感じる。
- 地方の女子だけの短大が、全国的な短大教育の中でどのような教育効果を出しているのか。また今後の課題はどういうことなのか毎回改善点を知ることができる。今後、補助金等によって各短大の負担がなくなればありがたいです。
- より多くの短大に参加してもらい、データが比較できればと考える。
- 多様な学生像が明確になるような分析がなされることを期待する。
- 今回、初めて参加させていただきましたので、継続して参加させていただき、改善状況等を学内で共有していきたいと考えています。
- 短大生調査を実施して、その後どのような改善につなげたかという具体的な活用事例の紹介をしていただければと思う。
- 経年変化を把握していくため、今後も参加していきたい。
- 「継続は力なり」と言われます。今後も継続してほしいと願っております。
- 学生の学習に対する姿勢、環境、動向を調査することで、学習サポートに役立てること

が重要と感じました。

- 学生が自分の大学に何を求めているか、何が不足しているかということが明確になるような実施項目を期待しています。

#### 7.その他ご意見、ご感想等をお書き下さい。

- 2013年度は初めて「短大生調査」を実施した。しかも調査の対象が1年生だけであったので、今後は継続的に実施し、1年生から2年生への進学による成長の変化を検討したい。また今年度は本学において、調査関係者に「短大生調査を活用した教育改善に向けて」と題する講義を行っていただいたが、その際、学生の意識の客観的な分析を行って提示されたことは、私たちにとって大変刺激的であった。  
本学は2016年に第三者評価を受ける予定であるが、2014、2015年度にも「短大生調査」を実施して、「自己点検・評価報告書」の作成に役立てたい。
- 本学は2学科あるので、学科ごとの分析結果があるとよい。又、両学科専門職種（歯科衛生士、介護福祉士）の教育を行なっている為、継続して学生の評価を行なうのであれば、専門技術の獲得、習得に関する変化の調査があるとよい。また、集計結果について表だけでなくグラフ表示があるとわかりやすいと思う。
- この調査データは、時間と労力に基づくものであり、全国と自校の短期大学の学生がどのように同じで、何が異なっているのかを知ることができる貴重なものです。継続したデータは学生の考え方の変化を読み取ることができるので、社会が求める学生像と学生自身がイメージしている学生像のギャップを埋めるヒントが得られると考えている。その中から、学生たちが、これが短期大学に入学して学びたかったものだ、と思わせるものを示すことができる短期大学を目指したい。また本学では、インスティテューショナル・リサーチ（IR）委員会を立ち上げたので、さらにデータの解析が本格的に行えると考えている。
- 学校別のデータをコンパクトにまとめていただけると、より活用しやすい。
- 今後も継続して続けていただきたいと思います。
- 今回初めて参加させていただきました。これまで他学と比較することもあまりなかったので今後活用させていただき、本学の学生について新たな方向から理解を深めていくことで、本学の教育の在り方について自己点検作業を行っていきたいと思います。
- 結果に対する対応事例等を御教示願いたい。
- 学生の全体像を把握するための調査であるので、調査項目は綿密であるのは理解できる。そのために質問項目の小項目数が多く（20以上のものもみられる）、回答する側が細かく判断することに窮するものも多く見られた。もう少し項目内容を絞ることができればと思う。（たとえば、[21][22]と[31]は共通する項目もあるのでは。）
- アンケートに要する時間を短縮する方法を探っていただきたい。
- 昨年度もこのアンケートにて同様のことを記入しましたが、改善点が見られなかったの

で残念に思います。参加する短大数を増加させる方法を検討してはどうでしょうか。(たとえば、不参加の短大にアンケートをとる、手数料をなくす等)

- 設問数をもう少し減らせるのでしたら、学生の負担感が少ないと思う。
- 初めて参加しましたので、参加させていただいたこと、参加できたことに、感謝しております。

【注】 ご意見等の掲載に当たり、設問文が略されている場合には便宜のために補って全文とし、固有名詞が記載されている場合には機関名などが特定できないように固有名詞を削除するなど、一部修正させていただきました。

---

この集計結果によれば、今回の短大生調査は、調査項目の学生への質問としての適切性について、「適切であった」は約 36%、「大旨適切であった」は約 64%と、全体としては高い評価を得ている。しかし、「大旨適切であった」とする場合の具体的な問題の指摘として、質問項目が多い、質問項目で使用されている語句や表現が難しい、などの意見が寄せられている。

調査の実施時期については、「適切であった」は約 46%、「大旨適切であった」は約 39%を占めており、現行の実施時期はおおむね適切であると思われるが、参加校の個々の状況から年明けや学年末の実施を希望する短期大学もある。

実施方法については、ホームルームの時間、講義時間の一部を割いてクラス・ゼミごとに実施したり、全学で一斉に実施したり、または自宅に持ち帰って回答し、後日提出するなど、様々な形態で調査が実施されていた。

短期大学各自の集計データ、及び全体集計結果・中間報告書の活用については、認証評価に関連した自己点検・評価報告書の作成、FD 活動、学生募集、広報活動等の参考に用いたり、学生指導や学生支援の改善に生かしたり、参加校全体集計結果との比較によって自学の特徴や実態の把握に活用している（或いは活用予定である）。また、独自で実施している学生調査と連携し、比較分析を行うことによって大学運営に幅広く活用するなど、各短期大学の置かれた状況によってその活用の仕方は様々である。

上述のアンケート結果から、本短大生調査の今後の課題として、①調査項目の厳選、使用語句・表現の平易化、②調査の実施時期或いは実施期間についての再検討などが挙げられる。その他、参加校からの広範な要請に、より柔軟に対処できる短大生調査の工夫が求められている。

## JCIRP 短期大学学生調査チーム メンバー一覧 (○：研究総括)

(2013 年度現在)

氏 名	所属機関／職名
○山田 礼子	同志社大学／教授
相原 総一郎	愛知教育大学 教員養成開発連携センター／研究員
江原 昭博	関西学院大学 高等教育推進センター／常勤講師
森 利枝	大学評価・学位授与機構／准教授
渡辺 達雄	金沢大学 大学教育開発・支援センター／准教授

## 研究協力者

(2013 年度現在)

氏 名	所属機関／職名
堺 完	同志社大学 高等教育・学生研究センター／DC 研究員 [執筆担当：設問 21～37]
山崎 慎一	桜美林大学 総合研究機構／助手 [執筆担当：設問 1～20]

## 調査研究委員会 委員一覧 (◎委員長、○副委員長)

(2013 年度現在)

氏 名	所属機関／職名
◎館 昭	桜美林大学／教授
○清水 一彦	筑波大学／理事・副学長
北村 久美子	北村学園 こだま幼稚園／園長
草原 克豪	拓殖大学／名誉教授
小林 雅之	東京大学 大学総合教育研究センター／教授
田中 義郎	桜美林大学／教授
早田 幸政	大阪大学 評価・情報分析室／教授
春山 志郎	東京工業大学／名誉教授
溝上 智恵子	筑波大学／教授
藪 敏晴	佐賀女子短期大学／教授
山田 礼子	同志社大学／教授
吉本 圭一	九州大学大学院／教授